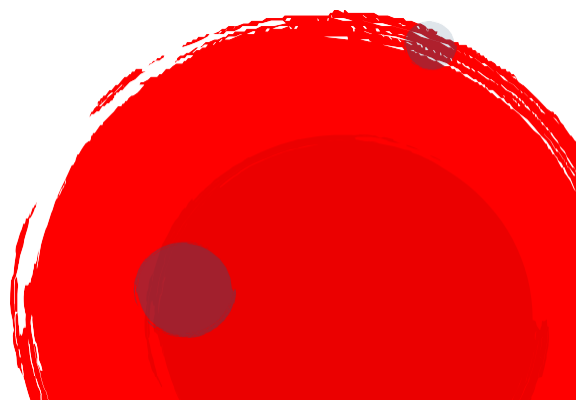


KONAN GAKUEN

令和3(2021)年度 事業報告書

学校法人
 甲南学園 甲南大学
甲南高等学校・中学校



CONTENTS

はじめに	1
I.新型コロナウイルス感染症への対応	2
II.令和3(2021)年度の学園総括	
1. 令和3(2021)年度予算編成方針の達成状況	4
2. 施設・設備への資金配分状況	4
3. 学園の経営状況	5
4. 令和3(2021)年度決算の要点	7
III.法人の概要	
1. 甲南学園のあゆみ	8
2. 役員一覧	9
3. 甲南学園の構成	10
4. 事務組織	11
5. 専任教職員数	12
6. 土地と建物	13
7. 主なキャンパスや施設	13
IV.事業の概要	
1. 甲南学園中期計画(2020～2024)の推進	14
2. 戦略事業の展開	20
3. 大学	21
4. 高等学校・中学校	26
5. 法人	28
V.財務の概要	
1. 財務の概要について	29
2. 資金収支計算書	29
3. 事業活動収支決算・構成比率	30
4. 貸借対照表	31
5. 財務比率の推移	32
VI.基本データ	
学生数・生徒数	34
留学者数	35
入学試験状況	36
学位授与	37
卒業生累計数	37
大学(学部学生)の就職状況	38



学校法人甲南学園
理事長 **長坂 悦敬**

甲南大学、甲南高等学校・中学校
を設置する甲南学園の歴史は、
大正8(1919)年の旧制甲南中学校の開校に
さかのぼります。
甲南を支える大きな精神的支柱である
創立者の平生夙三郎は、
本校ハ学校教育ノ現状ニ満足セザル
有志ノ者共ガ集マツテ、
知育偏重ノ弊ヲ避ケ、
「人格ノ修養」「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、
「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベク、
知的教育ヲ施サン」

トノ主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

高等学校第1回卒業式／大正15(1926)年

と述べています。

本学園は、今後も、この気概と品格ある
建学の精神をもとに、教育・研究の質を高め、
本学園の社会的使命を
達成することを目指しています。

私たちは2019年4月の甲南学園100周年の節目に、「人物教育のパースペクティブ」として、創立者平生夙三郎の教えのもと、“個人個人の天賦の特性を引き出すという「人物教育」がいわゆる「人間として人間らしい人間をつくる」という単純明快なことながら、大きな環境の錯綜する変化のなかでこれをどのようなものとして実現していくか、平生精神を託されたすべての甲南人にとっての一大テーマである”と宣言いたしました。

甲南新世紀の初年度からコロナ禍に見舞われましたが、甲南学園は1919年スペイン風邪が大流行していたときに力強く立ち上がった学園であり、その後の幾多の苦難も乗り越えてきた学園です。同じように必ずこの危機を乗り越えることができると確信しています。改めて、私たちには、「人物教育」を進化させ、これからの時代に活躍できる学生・生徒を育てていくという大事な使命があることを自覚しております。

現在、本学では「甲南学園中期計画(2020～2024)」を実行しています。甲南大学の「KONAN U.VISION 2025」に向けたアクションプラン、甲南高等学校・中学校の「中期行動計画」を確実に進め、「人物教育率先の進化」についてさらなる正のスパイラルを描くとともに、「KONAN-PLANET」の充実化などから「地域社会と朗らかにつながる学園」の構築をはかり、加えて、「世界に通じるKONANクオリティ」の実現を目指し、学生にとって魅力的な大学とは何かを Student-first の視点で取り組む「KONANクオリティ・プラス」プロジェクトを展開しております。

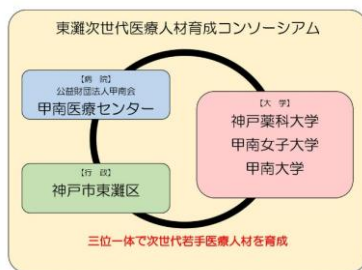
一方で今は、予測困難なVUCAの時代(Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性))であり、様々な問題や課題に迅速かつ柔軟に対応していく組織力が必要になっています。平生夙三郎の教え、「常ニ備ヘヨ」、「共働互助」の精神がますます大事になります。また、平生夙三郎は、人生のモットーとして「正志く強く朗らかに」を掲げました。たとえ逆境にあるときでも、正義感を持ち、強い意志で行動し、明るく快活に過ごせば、毎日が楽しくうまくいくものであるというこの教えは、甲南学園の教職員、学生、生徒の行動規範の支柱になっています。甲南学園は、「平生フィロソフィ」(平生の人生全体を貫く基本的な考え方)のもと、自分たちのことだけではなく、自立した者同士が集まって、「共働互助」の精神で、「正志く強く朗らかに」未来に向かってこれからも歩み続けます。今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

I.新型コロナウイルス感染症への対応



新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施 | 東灘次世代医療人材育成コンソーシアムにおける連携

2021年6月、ワクチン接種を企業や大学等において行う仕組み(職域接種)の実施が政府より発表され、本学は東灘次世代医療人材育成コンソーシアムの枠組みを利用した「東灘コンソーシアムワクチン接種協議会」(甲南医療センター、甲南大学、神戸薬科大学、甲南女子大学、神戸市東灘区)で協働して行うこととし、6月11日に甲南大学平生記念セミナーハウスにて記者会見を行いました。



会場は甲南大学iCommons、接種対象者は甲南大、甲南女子大、神戸薬科大の学生、教職員、教職員の家族をはじめ、関係会社社員、神戸国際大、頌栄短期大の学生や教職員、東灘区の公立高等学校、中学校、小学校の教職員などにも対象を広げ、ワクチン接種に関する地域の負担を軽減し、接種の加速化を図ることに貢献しました。

1回目は2021年7月に10,715名に対し、2回目は同8月、9月に10,669名に対して接種しました。その後、3回目ワクチン接種についても職域接種を実施し、2022年3月に3,654名に対して接種しました。

甲南大学における新型コロナウイルス感染症への対応

【学びの継続に関する経済的支援】

独自の制度として「甲南大学2021年度前期(後期)授業料特別減免」を設け、前期48名、後期38名に対して授業料から30万円の減免を行いました。

【授業対策】

感染症対策をとりながら原則として対面授業を実施し、授業の規模や特性により三密を避ける対策が難しい科目についてはWEBを活用した授業を行うこととしました。具体的には、履修登録者数が150名以内の授業は原則対面で実施することを基本とし、この方式では約85%の授業クラスが対面授業となりました。その上で、感染状況により段階的に制限を設けることとし、「まん延防止等重点措置」が発令された場合には履修者数が100名を超える授業科目においてはWEBを活用した授業へ変更し、緊急事態宣言が発令された場合にはゼミ・実験を除き、全ての対面授業をWEBを活用した授業に変更するなどの対応を行いました。なお、大学院の授業科目については、多くの授業科目の履修者数が少数であることから、各授業科目の実態に応じて授業を実施しました。結果として、学年暦どおりの授業実施ができました。

【課外活動】

クラブ、サークル活動は、学生部が事前に実施計画書、感染対策の提出を求め、内容を確認した上で活動を許可しました。ピーク時には体育会、文化会団体の活動実施率は96%(10月12日)まで回復しましたが、感染状況に応じて、活動禁止や活動人数・活動場所(県内・県外)の制限を行うなど、慎重な活動状況となりました。

残念ながら、体育会課外活動団体において部員8名及び合同練習に参加した学外者3名の感染が判明し、大学として初めてクラスター認定を受けることとなりました。この事態を重く受け止め、学長メッセージと、学生部長による全学生宛の啓発・警告文書を出しました。その後、クラスターの発生はみられませんでした。

【入学試験、式典、行事等の実施】

行事については、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて感染対策を徹底しながら、以下のとおり実施しました。

① 入学試験

一般入学者選抜試験が実施できなかった場合に備え、振替実施日を準備しました。受験生に対しては、新型コロナウイルス相談専用ダイヤルを設けて相談対応を行いました。試験当日においても、無症状の濃厚接触者は別室受験とし、当日発熱等によって受験できなかった受験生に対しては追試験の機会を確保しました。この他、試験日までに来日できない海外の志願者に対し、オンラインでの試験の実施等の対応を行いました。

② 入学宣誓式・学位記授与式

3部制により出席者数を分散して対面で開催しました。ご父母・保護者等の来学は控えていただく形となりましたが、オンラインで動画配信を実施し、リアルタイムで式典をご視聴いただけるよう対応を行いました。

③ オープンキャンパス

参加人数を制限した事前申込制による対面形式をWEB併用形式で実施しました。秋期は、緊急事態宣言下でもあり、オンデマンドとLIVE配信によるWEBオープンキャンパスとして開催しました。

④ 摂津祭

2020年度は残念ながら中止となりましたが、2021年度は「It's 57(gonna) be alright!~57(甲南)おかえりな祭~」とし、10月29日~31日に対面で実施しました。来場者の定員を設定した事前予約制(2部制)とし、入場口の限定、事前予約の確認などトレーサビリティを確保した上で実施しました。また、プロコンサート・現代講座等の人気イベントは、イベントの参加機会が限られていた1・2年生について、チケット・座席等の優先販売を行いました。

【環境整備】

大学の各キャンパス入口にAIサーマルカメラによる表面体温チェックと手指消毒液を配置し、IC学生証の端末タッチ等による登校確認を経て入構する仕組みを継続、各教室では必要換気量に基づいた厳格な定員管理とレイアウト変更を維持し、徹底した消毒や換気を引き続き実施しました。食堂では、アクリルパネルの設置場所を拡大し、飛沫拡散防止と黙食・個食を促す工夫を継続しました。その他、オンライン授業の学内での受講場所を増設し、Wi-Fiエリアの拡大を行うなどの環境整備を実施しました。

甲南高等学校・中学校における新型コロナウイルス感染症への対応

【学びの継続に関する経済的支援】

「家計急変特別支援奨学金制度」により、各学期に合計21名に支給しました。

【授業対策】

感染状況によりオンライン授業や短縮授業などの対策を取り、年間カリキュラムを終了することができました。

【課外活動】

県の指針に従い、実施日や活動時間、活動区域に制限を設けて実施しました。

【式典、行事等の実施】

入学式、始業式は対面で、1月の予定だった高校卒業式は3月に延期して同様に対面実施されました。また文化祭がWEB実施になり、高三修学旅行が短縮実施、体育祭が延期の上で無観客開催とするなど、感染状況によってさまざまな対応を取って行事を実施しました。

【入学試験】

会場における感染対策を徹底し、予定どおり実施しました。

【環境整備】

網戸や空気清浄機の設置による換気と消毒を継続しました。

II. 令和3(2021)年度の学園総括

1. 令和3(2021)年度予算編成方針の達成状況

(1) PDCAサイクルを踏まえた事業計画の状況

予算ヒアリングにおいて、中期計画における事業計画書に基づいた説明を求め、当該プロジェクトの実績や今後の見通しを中心に質問する等、中期計画と予算の連動、PDCAを意識した予算ヒアリングを実施しました。

(2) コロナ禍における柔軟な予算編成の状況

新型コロナウイルス感染症対策に対応するべく、ワクチン職域接種実施費用として1.1億円、家計急変特別支援や授業料特別減免に係る奨学金として合計107名に対して0.3億円を措置しました。

(3) 在籍目標者数の堅持と事業活動収支差額0.2%の目標

令和3(2021)年度の大学における入学者数は、定員数を満たしており、高中においては概ね収容定員通りの在籍者数を堅持しています。事業活動収支差額比率は、補正予算時には0.1%を見込んでおりましたが、経常経費の見直し等の経営努力によって、決算時には3.3%となり、収支を好転させると同時に当初目標を達成しました。

(4) 第2次KONANプレミア・プロジェクトに係る支出の状況

60のプロジェクトに対して、教育研究経費支出1.0億円、管理経費支出0.2億円の合計1.2億円の支出となりました。

(5) 戦略事業としてFIBERに係る支出の状況

人件費支出0.9億円、教育研究経費支出1.3億円、施設・設備関係支出0.3億円の合計2.5億円の支出となりました。

(6) 受取利息・配当金収入の重点配分の状況

21世紀に輝く学園、すなわち優秀な学生への支援に0.7億円、学園の戦略広報・スポーツ強化支援に0.4億円、国際的に卓越した研究推進に0.4億円の重点配分を行い、教育研究経費を中心に1.4億円を拠出しました。

(7) 人件費及び委託業務費の状況

人件費支出77.7億円、委託業務費支出は16.1億円となりました。

2. 施設・設備への資金配分状況

区分	概要	金額(千円)
新規投資	なし	0
経常的改修・修理	<ul style="list-style-type: none">講堂兼体育館天井改修図書館地下1階空調更新六アイ整備改修工事甲友会館大ホール特定天井改修高中校舎北館空調更新感染症対策工事3号館講義室照明LED化工事	503,510
教育改革・研究高度化のための施設・設備更新	<ul style="list-style-type: none">教育情報システム更改学内無線LAN整備私大助成研究設備	77,988

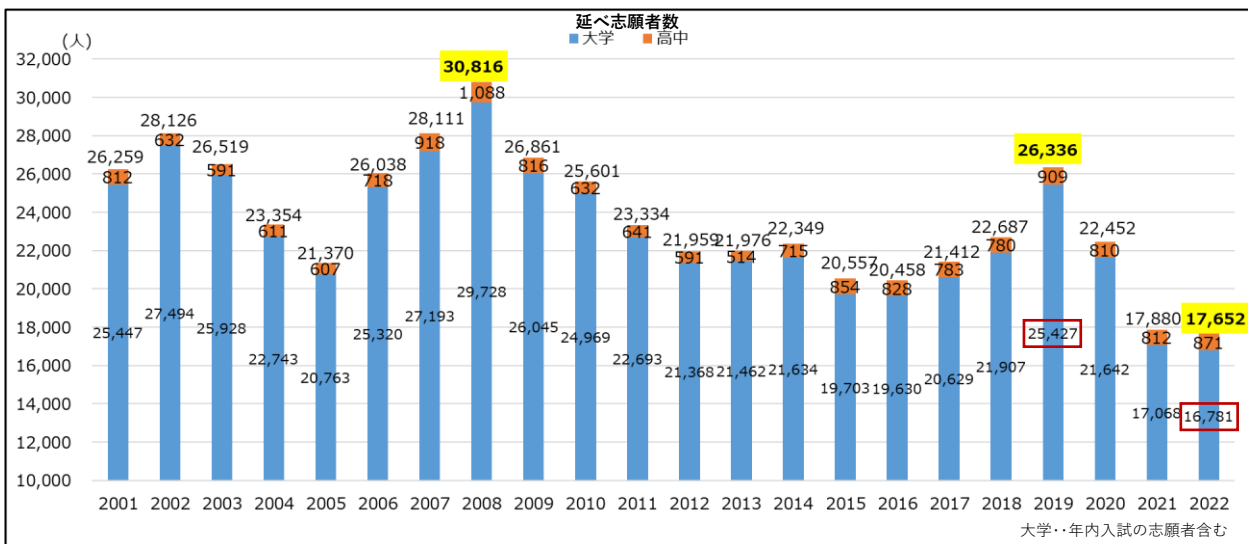
3. 学園の経営状況

(1) 入口：入学者の状況、外部評価

入学者の状況については、全国の私立学校のうち大学46.2%、高等学校73.1%が学生・生徒の定員数を満たせない中、本学は大学・高中ともに入学定員数を満たし、良好な入学者数となっています。

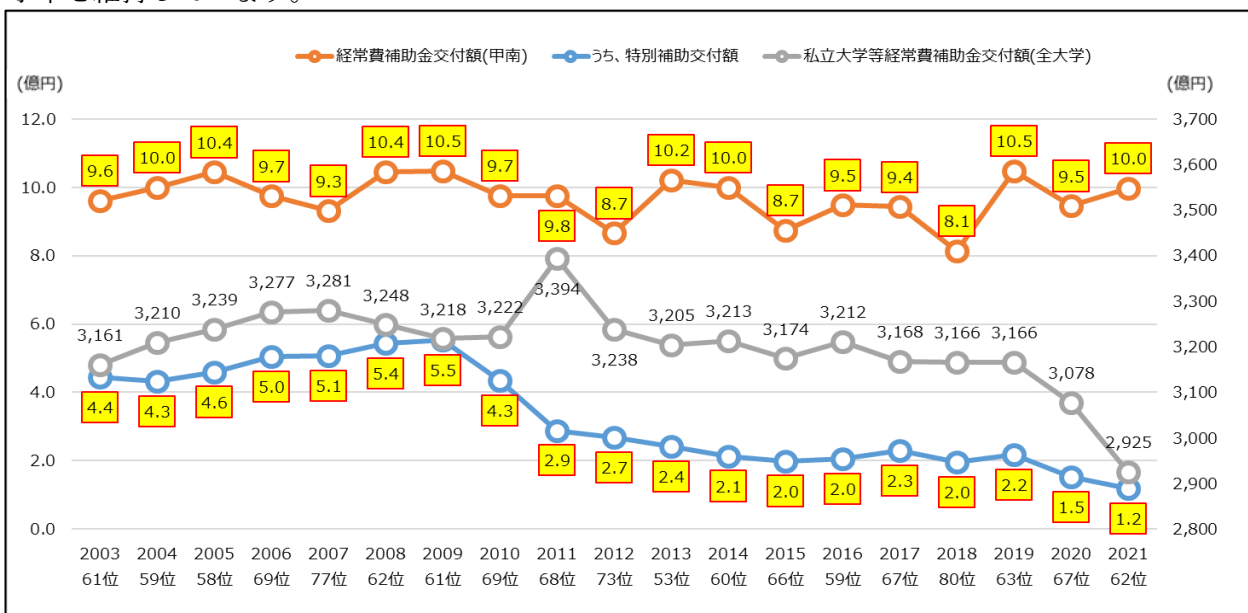
他方、大学における志願者数の減少が顕著であり、回復の兆しがあった平成31(2019)年度の延べ志願者数25,427人から3年連続で減少し、令和4(2022)年度志願者数は延べ16,781人(約34%減)と全国的な18歳人口の減少やコロナ禍の影響を大きく受けておりますが、一般入学試験の実志願者数において、5,741人と一定程度の人数を確保できており、合格可能性の基準となる偏差値の経年変化においても数年前と比較して上昇傾向となっています。また、甲南中学校の入学試験における志願者数は、令和4(2022)年度において延べ志願者数871名(甲南小学校からの志願者23名を除く)でした。過去7年間の平均延べ志願者数は800名を超えており、相対的に高い水準で安定しています。

なお、外部評価の指標となる大学通信における大学ランキングでは、「小規模だが評価できる大学：全国33位/793校、関西圏共学私立2位」にランクされており、引き続きミディアムサイズの総合大学としてのプレゼンスを高めていく取り組みを継続していきます。



(2) 中身：教育改革の状況

令和3(2021)年度の私立大学等改革総合支援事業では、4項目中1項目が選定されました。本事業は平成25(2013)年度から開始され、教育及び研究面において大学改革に組織的・体系的に取り組む私立大学等に対し、財政基盤の充実を図るために重点的に支援が行われるものです。また、私立大学等経常費補助金額は、約10.0億円(581校中62位)であり、うち教育改革や研究高度化に資する取り組みに対して上乗せされる特別補助金額は、約1.2億円(581校中24位)で、補助金額としては漸減しているものの相対的に高い水準を維持しています。

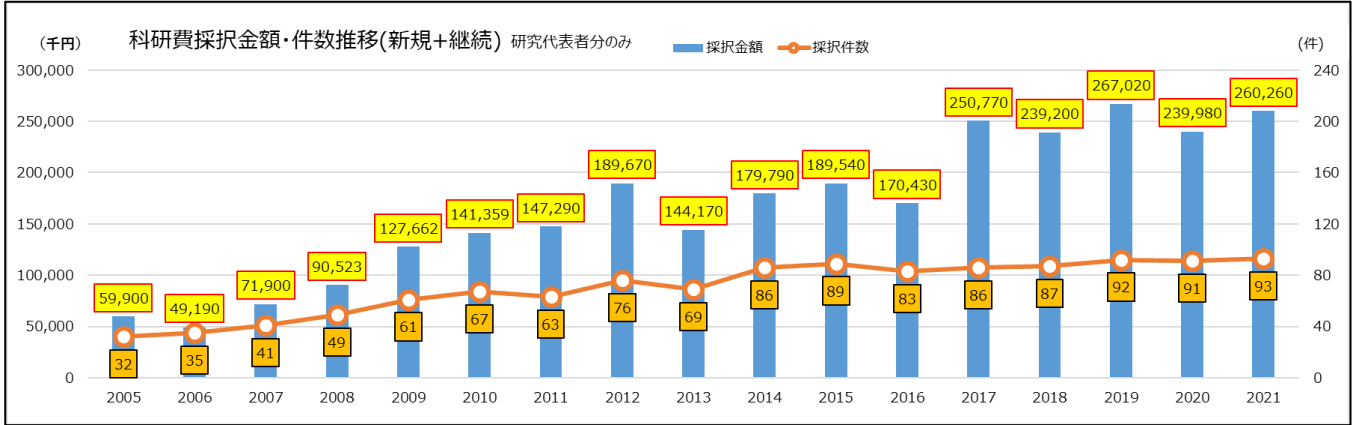


II. 令和3(2021)年度の学園総括

3. 学園の経営状況

(3) 中身：研究高度化の状況

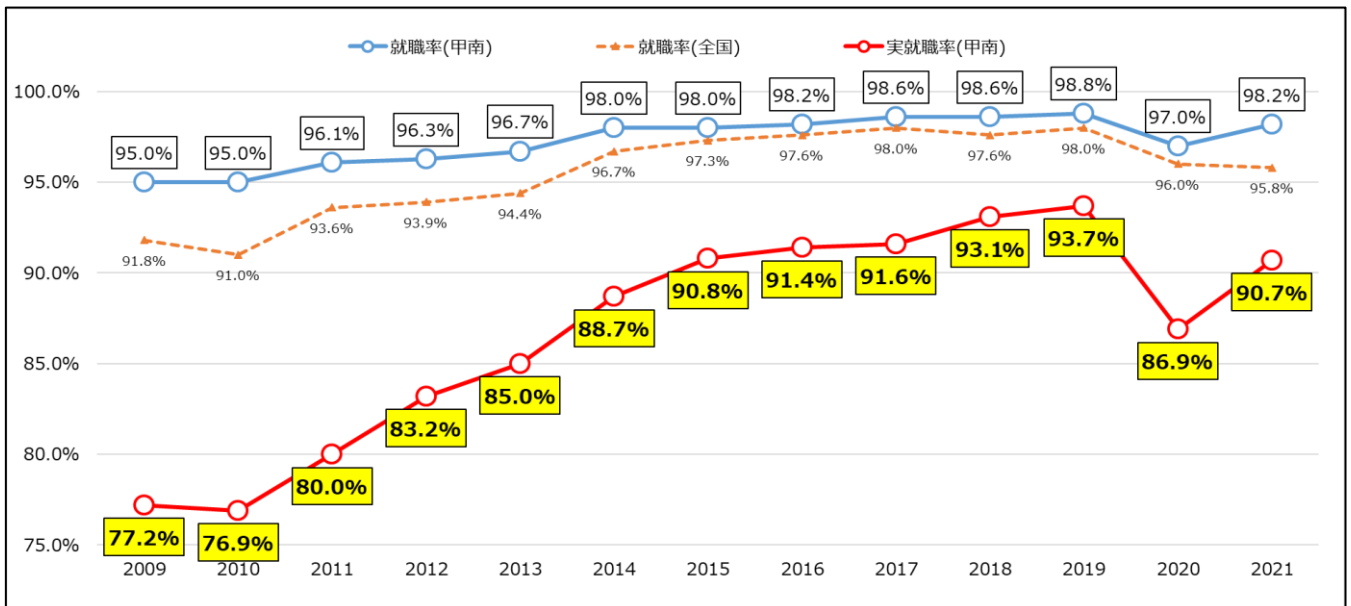
日本学術振興会より有望な研究計画に付与される令和3(2021)年度科学研究費の採択状況は、93件・約2.6億円(継続を含む研究代表者分のみ)であり、過年度から継続して高い水準を維持しています。また、研究活動の実用化指標となる産業界等からの受託研究、共同研究、奨学寄附金等の外部資金による研究助成額(約2.2億円)も過年度と比較して増加傾向となっています。



(4) 出口：就職関連状況及び高等学校の大学進学実績

令和3(2021)年度の大学卒業生の就職率(内定者/就職希望者)は、全国平均95.8%(4/1時点)を上回る98.2%(5/1時点)であり、過年度から継続して高い水準を維持しています。実就職率(就職者数/(卒業生数-大学院進学者数))は、令和元(2019)年度まで9年連続で上昇し、令和元(2019)年度には93.7%と過去最高値を記録しました。令和2(2020)年度においては、コロナ禍による全国的な就職環境の悪化や関西圏が本社である企業の求人倍率低下等が影響し、86.9%となりましたが、令和3(2021)年度は90.7%(5/1時点)と回復しています。

高等学校の大学進学等実績は、令和3(2021)年度卒業生において、甲南大学の進学者数は96名で、国公立大学には21名が進学しました。過年度生を含むおもな合格先としては、京都府立医科大学医学部に1名、東京医科歯科大学歯学部1名、大阪大学に5名、神戸大学に3名などで、国公立大学には計28名が合格しました。本学以外の私立大学においては、医歯薬獣医学部に12名、早慶上智に6名、海外の大学に12名が合格しました。今後も学園としての中高大一貫教育の強化を図りつつ大学進学実績を積み重ねていきます。



4. 令和3(2021)年度決算の要点

(1) 事業活動収支の概要について

① 基本金組入前収支差額

予算編成方針において経常収支差額の均衡を目指しており、補正予算において約0.1%の基本金組入前収支差額(0.1億円)を目指していましたが、決算額は収入合計145.8億円に対して支出合計141.1億円、基本金組入前収支差額4.7億円となり、収支差額3.3%と好転することとなり、当初目標を上回りました。

② 各設置校の財政的自立

大学及び本部4.1億円、高中0.6億円の収支差額となり、補正予算の見込みより好転しました。

(2) 資金収支の概要について

計画実施時の効率・効果的な予算執行に努めたこと、減価償却相当額約18.3億円を留保したことにより、再投資資金は約23.0億円となり、施設・設備関係支出にかかる約11億円を差し引いたキャッシュフローは約12億円となります。

(3) 資金収入の概要について

① 学生・生徒納付金収入

補正予算額110億円に対して0.1億円減少し、109.9億円となりました。減収の要因は、見込みよりも休学者が増加したことによります。引き続き、入学者確保のための精緻な施策と退学者抑制諸施策を継続して講じ、確実な収入確保を目指していきます。

② 補助金収入

補正予算額19億円に対して0.2億円増加し、19.2億円となりました。前年度決算と比較すると1.4億円の増加であり、経常費補助金、大学修学支援にかかる授業料減免交付金、新型コロナウイルスワクチン職域接種にかかる補助金、施設整備費補助金の増加によるものです。

なお、国の補助制度は抑制傾向にあり、教育改善や研究高度化が評価される改革総合支援事業や特別補助関係事業等により多くの補助が配分されていることから、それらへの積極的な申請と選定が必要となります。

(4) 資金支出の概要について

① 人件費支出

補正予算額77.8億円に対して0.1億円減少し、77.7億円となりました。退職金支出が0.8億円増(依願退職者の増)となりましたが、大学教員人件費約0.6億円減(採用見送り等)、大学職員人件費約0.3億円減(休業者等)によるものです。

教職員数の減少により人件費総額は一時的に減少していますが、私学共済掛金及び雇用保険料率の増に伴い法人全体の所定福利費は増加傾向にあり、社会保険料率の増に伴う法人負担人件費の増加は今後経営を圧迫する要因となることが懸念されます。

② 教育研究・管理経費支出、施設・設備関係支出

補正予算額59.7億円から4.9億円減少し、54.8億円となりました。大学における教育研究経費支出が3.0億円の減少、管理経費支出が0.2億円の減少及び施設・設備関係支出が1.1億円減少したことが主な要因です。

III.法人の概要

1. 甲南学園のあゆみ



創立者 平生 夙三郎

平生夙三郎は、慶応2(1866)年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建するなど実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立など社会事業にも深く関わり、政治においては、広田内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。教育理念として、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」を掲げ、甲南中学校、さらに7年制の甲南高等学校を創立しました。

- 大正7(1918) 財団法人甲南学園 私立甲南中学校設立認可
- 大正8(1919) 私立甲南中学校開校
- 大正12(1923) 7年制甲南高等学校開校
- 昭和23(1948) 新制甲南高等学校に移行
- 昭和26(1951) 甲南大学設置認可、甲南大学開学、文理学部設置
- 昭和27(1952) 経済学部増設
- 昭和32(1957) 文理学部を文学部と理学部に分離
- 昭和35(1960) 法学部・経営学部増設
- 昭和38(1963) 甲南高等学校・中学校が岡本から芦屋市に移転
- 昭和39(1964) 大学院人文科学研究科、自然科学研究科設置
- 昭和40(1965) 大学院社会科学研究科増設
- 平成3(1991) トゥレーヌ甲南学園(フランス甲南学園トゥレーヌに校名変更)高等部・中等部を開校
- 平成13(2001) 理学部を理工学部に変更
- 平成14(2002) 経済学部・経営学部EBA総合コースを開設(平成25年廃止)
- 平成15(2003) 先端生命工学研究所(FIBER)設置
- 平成16(2004) 大学院法学研究科(法科大学院)増設
- 平成18(2006) 大学院ビジネス研究科(会計大学院)増設
(平成25年会計専門職専攻として社会科学研究科のもとへ移設、平成28年廃止)
- 平成20(2008) 知能情報学部増設
- 平成21(2009) マネジメント創造学部増設(西宮キャンパス新設)
先端生命工学研究所移設・フロンティアサイエンス学部・同研究科増設(ポートアイランドキャンパス新設)
フランス甲南学園トゥレーヌ中等部閉校
- 平成25(2013) フランス甲南学園トゥレーヌ高等部閉校
- 平成28(2016) 白川台キャンパス(愛称:コスモスキャンパス)を開設
- 平成29(2017) KONAN INFINITY COMMONS(愛称:iCommons)が竣工
- 平成31(2019) 学園創立100周年記念式典を挙げる
- 令和2(2020) 全学教育推進機構を開講
新型コロナウイルス感染症の影響により、Webを活用した授業を開始
- 令和3(2021) 大学開学70周年

2. 役員一覧(令和4(2022)年3月31日現在)

理事

定数18～28名
現員26名

長 坂 悦 敬 (理事長)
 中 井 伊都子 (常任理事 甲南大学長)
 山 内 守 明 (常任理事 甲南高等学校・中学校長)
 西 欣 也 (甲南大学文学部長)
 今 井 博 之 (甲南大学理工学部長)
 奥 田 敬 (甲南大学経済学部長)
 桑 岡 和 久 (甲南大学法学部長)
 北 居 明 (甲南大学経営学部長)
 市 川 典 男
 片 山 勉 (副理事長 常任理事)
 佐 藤 泰 弘 (常任理事 甲南大学副学長)
 立 野 純 三
 村 嶋 貴 之 (常任理事 甲南大学副学長)
 薬 袋 真 人 (常勤)
 山 田 純 嗣
 伊 藤 勲
 稲 垣 嗣 夫 (常任理事)
 具 英 成
 小 西 新右衛門
 杉 本 直 己 (甲南大学先端生命工学研究所長)
 角 和 夫
 中 内 仁
 平 野 欽一郎 (専務理事)
 村 津 敬 介 (常任理事)
 米 田 壯
 渡 辺 颯 修 (常任理事 甲南大学法科大学院教授)

監事

定数2～3名
現員2名

植 村 武 雄
 牧 美喜男

評議員

定数40～59名
現員56名

井野瀬 久美恵 (学内) 平 野 欽一郎 (学内)
 日下部 岳 広 (学内) 渡 辺 颯 修 (学内)
 寺 尾 建 (学内) 中 井 伊都子 (学内)
 濱 谷 和 生 (学内) 山 内 守 明 (学内)
 松 本 茂 樹 (学内) 西 欣 也 (学内)
 石 野 牧 生 (学内) 今 井 博 之 (学内)
 河 口 浩 (学内) 奥 田 敬 (学内)
 谷 向 豊 (学内) 桑 岡 和 久 (学内)
 狭 間 宏 明 (学内) 北 居 明 (学内)
 林 正 樹 (学内) 佐 伯 孝 平
 足 立 恵 英 (学内) 清 水 弓 彦
 角 典 久 (学内) 高 橋 恵 信
 赤 田 真 朗
 衣 斐 茂 樹
 奥 田 兼 三
 小 倉 宏 之
 片 山 勉 (学内)
 佐 藤 茂
 白 石 朋 康
 杉 山 洋 一
 立 野 純 三
 道 満 善 弘
 松 井 佐一郎
 丸 谷 昭 博
 薬 袋 真 人 (学内)
 和 田 直 哉
 稲 垣 嗣 夫
 長 坂 悦 敬 (学内) 山 田 純 嗣

理事…

学校法人の決議機関は理事会であり、私立学校法は、「学校法人に理事をもって組織する理事会を置く。」、「理事会は学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」としています。理事は理事会に参画し、学校法人の業務を決めていきます。

監事…

監事は、理事と同じように学校法人の役員となっています。監事は監査機関であって、①学校法人の業務、②学校法人の財産の状況を監査すること等が主たる職務とされています。そのほか、監査報告書の作成、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べることもその職務とされています。監事は、評議員会の同意を得て理事長が選任します。また、監事は、監査の公正を保つために、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないこととされています。

評議員…

評議員会は、学校法人の重要事項について、理事長から意見を求められ、理事長に対して意見を述べる諮問機関としての役割があります。予算の決定、基本財産の処分、寄附行為の変更等の重要案件については、理事長はあらかじめ評議員会から意見を聞かなければならないこととされています。

III.法人の概要

3. 甲南学園の構成

大学

文学部

■ 日本語日本文学科

■ 人間科学科

■ 英語英米文学科

■ 歴史文化学科

■ 社会学科

理工学部

■ 物理学科

■ 機能分子化学科

■ 生物学科

経済学部

■ 経済学科

法学部

■ 法学科

経営学部

■ 経営学科

知能情報学部

■ 知能情報学科

マネジメント創造学部

■ マネジメント創造学科

フロンティアサイエンス学部

■ 生命化学科

大学院

人文科学研究科

修士課程

■ 日本語日本文学専攻

博士後期課程

■ 日本語日本文学専攻

■ 英語英米文学専攻

■ 英語英米文学専攻

■ 応用社会学専攻

■ 応用社会学専攻

■ 人間科学専攻

■ 人間科学専攻

自然科学研究科

■ 物理学専攻

■ 物理学専攻

■ 化学専攻

■ 生命・機能科学専攻

■ 生物学専攻

■ 知能情報学専攻

■ 知能情報学専攻

社会科学研究科

■ 経済学専攻

■ 経営学専攻

■ 経営学専攻

フロンティアサイエンス研究科

■ 生命化学専攻

■ 生命化学専攻

専門職大学院

法学研究科

■ 法務専攻(法科大学院)

機構・センター・図書館

■ 全学教育推進機構

■ フロンティア研究推進機構

■ 国際言語文化センター

■ 共通教育センター

■ スポーツ・健康科学教育研究センター

■ 地域連携センター

■ 国際交流センター

■ 教職教育センター

■ 公認心理師養成センター

■ 教育学習支援センター

■ リカレント教育センター

■ キャリアセンター

■ 図書館

■ アドミッションセンター

■ 学生相談室

■ 心理臨床カウンセリングルーム

■ カウンセリングセンター

附置研究所

■ 総合研究所

■ 人間科学研究所

■ 先端生命工学研究所

■ ビジネス・イノベーション研究所

甲南高等学校・中学校

関連会社

株式会社甲南学園サービスセンター

(ホームページ)<http://www.konan-isc.co.jp/index.html>

4. 事務組織(令和4(2022)年3月31日現在)

経営企画室	
スポーツ強化支援室	
総務部	総務課
	人事課
財務部	
管財部	
情報システム室	
広報部	広報課
	甲友課
学園振興募金室	
ネットワークキャンパス東京事務所	
大学	学長室
	教務部
	学生部
	キャリアセンター
	図書館事務室
	アドミッションセンター
	法科大学院事務室
	文学部事務室
	理工学部・知能情報学部事務室
	経済・法・経営学部合同事務室
	西宮キャンパス事務室
	ポートアイランドキャンパス事務室
	全学教育推進機構事務室
	国際言語文化センター事務室
	国際交流センター事務室
	教職教育センター事務室
	公認心理師養成センター事務室
	カウンセリングセンター・人間科学研究所事務室
	フロンティア研究推進機構事務室
	地域連携センター事務室
高等学校・中学校	高等学校・中学校事務室
監査部	

Ⅲ.法人の概要

5. 専任教職員数(令和3(2021)年5月1日現在)

大学	文学部	理工学部	経済学部	法学部	経営学部	知能情報学部	創造学部 マネジメント サイエンス学部	フロンティア センター	共通教育 センター	国際言語文化 センター	国際交流 センター	教職教育 センター	先端生命工学 研究所	法科大学院	学長直属	合計
教授	38	24	17	18	20	12	8	9	14	9		1	1	4		175
准教授	8	9	2	7	1	7	7	4	4	5			3			57
講師	3			1	1			1	1							7
助教													1			1
特任等	2		4	1	3		7		6	6	3				1	33
小計	51	33	23	27	25	19	22	14	25	20	3	1	5	4	1	273

高等学校・ 中学校	校長	教諭	契約・任期付	養護教諭	司書教諭	合計
	1	48	7	1	1	58

職員	専任	嘱託	その他	合計
	165	42	40	247

6. 土地と建物(令和4(2022)年3月31日現在)

土地面積		建物面積	
大学	195,074.45㎡	大学	145,442.22㎡
高中	45,791.00㎡	高中	18,944.16㎡
その他(職員住宅等)	7,026.00㎡	その他(職員住宅等)	3,646.65㎡
土地面積総合計	247,891.45㎡	建物面積総合計	168,033.03㎡

7. 主なキャンパスや施設

岡本キャンパス
兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1



西宮キャンパス
兵庫県西宮市高松町8-33



ポートアイランドキャンパス
兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20



白川台キャンパス
兵庫県神戸市須磨区東白川台5-6



六甲アイランド体育施設
兵庫県神戸市東灘区向洋町中8-2



甲南高等学校・中学校
兵庫県芦屋市山手町31-3



甲南大学平生記念セミナーハウス
甲南学園平生記念館
兵庫県神戸市東灘区住吉本町2-29-15

ネットワークキャンパス東京
東京都千代田区丸の内1丁目7-12 サピアタワー10F

IV.事業の概要

1. 甲南学園中期計画(2020~2024)の推進

(1) 甲南学園中期計画の全体像

学校法人甲南学園は、建学の精神“人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を伸張させ、「大局ノ打算ヲ誤ラザル志厚キ」人物を育成し、「正志く 強く 朗らかに」人類社会に貢献する”を理念に、学園方針“科学技術の目覚しい発展、地球環境の急激な変化、政治・経済・社会の激変など、21世紀現代の人類社会が直面する複合的課題に対する時代感覚を研ぎ、「常ニ備ヘヨ」の精神を鍛え、ミディアムサイズの利点を生かし、自由と自立の気風を重んじ、行動力の喚起・活性化を強力に促す研究教育力の甲南を目指す”のもと、以下の教職員共通の3つの「学園スローガン」を掲げ、設置校である大学・高中のビジョンに基づく中期計画の推進とともに学校運営に取り組んでいます。



大 学 ※1	<p>ミディアムサイズ総合大学の特色を生かした質の高い教育基盤の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生の確かな成長につながる教育活動の体系的な充実・発展 ②入学から卒業までの学生の成長を支える連携体制と環境の充実 ③学修者本位の教学マネジメントの徹底 	<p>地域連携の深化と教育への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「人物教育」の一環としての地域連携教育の充実 ②幅広い世代を対象とした地域連携・社会貢献活動の展開 ③地域連携センターの組織体制の強化
	<p>新たな時代に向けた甲南教育プログラムのさらなる発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ①専門教育の質の向上・特色化と一体的な共通教育の整備・充実 ②予測不可能な時代に向けた新たな教育への挑戦 ③リカレント教育の推進と世代を超えた学びの場の創出 	<p>世界に通じる特色ある研究力の活用と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ①世界に通じる特色ある研究力の積極的な教育への反映 ②研究力の可視化と産学連携の推進 ③研究推進体制の充実・強化と適正な管理運営
	<p>融合型グローバル教育の浸透と発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ①融合型グローバル教育の特色を発揮した各種取り組みの充実・魅力化 ②キャンパスのグローバル化 ③グローバル教育推進体制の充実・強化 	<p>「KONANクオリティ」の追求と創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ブランディング戦略の策定と実践 ②高大接続活動の発展と情報発信・コミュニケーションの強化 ③「常に備えよ」の教えを生かした体制づくりの推進
高 中 ※2	<p>教育プログラムの開発・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ①カリキュラムの再構築 ②教育研究部による徳育教育、情操教育の開発 ③学習遅進者に対する学習支援プログラムの整備と学力の定着 ④図書館・情報科による情報活用能力の定着 ⑤OBの協力を得たキャリア教育の推進 ⑥体育プログラムの開発 ⑦学校行事の内容点検および整理・開発 	<p>国際交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①海外の高校・中学との姉妹校締結と海外交流プログラムの整備・拡充 ②海外大学との交流 <p>教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ①アクティブラーニングとAV・ICT環境の整備 ②教務部・教育研究部・進路指導部によるカリキュラム整備と学力の定着 ③多様な進路に対応するeポートフォリオシステムの構築 <p>高中運営の持続的発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コース制の発展・充実および生徒数確保のための入試改革の実施 ②校務分掌の改編による教員組織の活性化
	<p>学園運営の一層の健全化</p> <p>1. 学園教育機能充実のためのガバナンス体制の点検・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ①理事会による学園（大学・高中・法人）の諸課題の整理と改善策の検討 ②全学教育推進機構を中心とした革新的共通教育の推進を支える体制の整備 ③修学支援制度の運用・整備に応じた学園内奨学金制度の再編 ④人物教育率先の一環としての課外活動の健全化と活性化 ⑤学園ガバナンスの監査体制の整備と強化 <p>2. 高等教育機関としての研究機能向上と社会・地域への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各研究所と地域連携センターの機能・成果の評価 ②研究奨励のための基金の充実 ③各種研究費の公正活発な利用制度の確立 <p>3. リスクマネジメント体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自然災害・社会災害・パンデミック発生時に備えた対応策の検討 ②コンプライアンス違反への対応と防止体制の確立 ③サイバーセキュリティ対策の強化 <p>4. 強靱な組織体制の構築と整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ①高度化する業務への対応強化 ②業務の電子化推進等による労働生産性の向上 ③教職員の健康増進と福利厚生を目的とした新制度の整備 	<p>安心安全かつ環境にやさしいキャンパス整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ①耐震化率100%の達成と老朽化施設設備の改修計画の策定及び実行 ②エネルギー消費原単位の年間1.5%削減に向けた計画立案 ③誰もが使いやすい施設設備の整備 <p>財政基盤の強化</p> <p>1. 健全な財務体質の維持・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ①業務の効率化を含めた人件費及び委託業務支出の総額管理 ②中期計画と事業計画が連動した全学的な予算PDCAサイクルの構築 ③減価償却累計額の30%以上の再投資資金の積立 <p>2. 学納金収入以外の財源多様化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①安全な運用方針に基づく資金の運用 ②募金活動の活性化・多様化 ③施設利用・補助活動収入の増加策の検討 <p>社会との結節点としての広報機能の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ①芸術活動・スポーツへの協賛などの地域創生への参画 ②卒業生・同窓会組織との連携 ③甲南の持つ歴史的・文化的資産の再評価と社会への発信
法 人		

Ver1.0作成(2020年7月31日)

※1 KONAN U.VISION 2025の策定に伴い、大学関係のアクションプランを更新(2021年3月26日)

※2 甲南高中将来構想委員会提言に伴い、高中関係のアクションプランを更新(2021年7月30日)

IV.事業の概要

1. 甲南学園中期計画(2020~2024)の推進

(2) 甲南学園中期計画の進め方

(2)-1 進捗管理

進捗管理表(下図)を用いて、年度単位、月次単位でアクションプランごとに進捗状況を記載し、学園本部会議や理事会等の諸会議において学園全体で進捗を確認するサイクルを構築しています。

(イメージ)

法人 中期行動計画 進捗管理表 (一部抜粋)

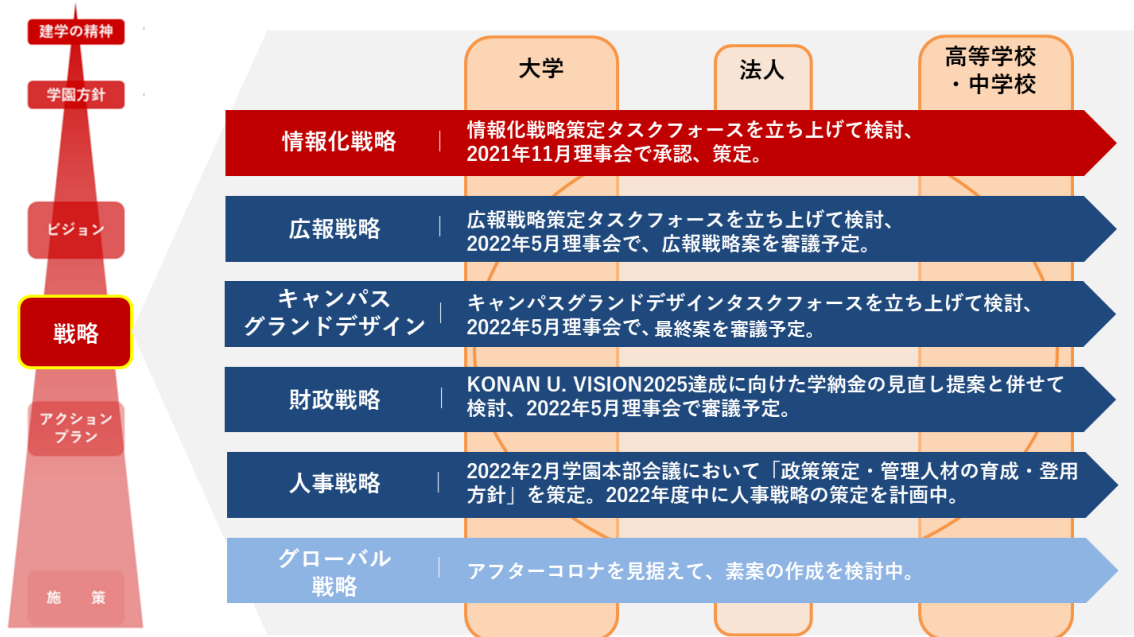
法人	中期行動計画(5ヶ年)	Version 2.0	担当	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
学園研究の一環の健全化										
1. 学園教育活動充実のためのガバナンス体制の点検・整備										
a	現在の教育活動の点検と、その専門分野や教育バランスについて、今後の在り方を検討する	経営企画室、学部	学園教育活動の点検(定例会議・他部、教員等、ST、半年度報告)の整理	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
b	中・高専科、大学一貫校としてのあるべき姿について議論し、方向性を定める	経営企画室、高専事務室、学部	高専・高専科(内閣進学部)や内閣進学等に關する情報(成績・経歴等)の整理 高専への投資(バランス)の整理 高専事務室との情報共有体制の構築	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
c	学園研究プロジェクトの検討と推進支援を行う	経営企画室、財務部、学部	FRCR評議委員会、独自の評価指標によるFRCRへの投資効果の検証 上記の検証結果の本部会議への報告	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
2. 全学教育推進機構を中心とした革新的教育の推進を支える体制の整備										
a	全学教育推進機構の創設及びその機能、役割の全学的認知と機能としてのインセンティブを確保し、4セクターが有機的に連携して協働する組織となるための体制を整備する	経営企画室、全学教育推進機構事務室	組織体制等今後の推進に關する全学教育推進機構推進室からのヒアリング実施	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
b	社会の変化や時代の要請に対応した人物教育の基盤となる共通教育の実現に向けた検討を進める	経営企画室、全学教育推進機構事務室	組織体制等今後の推進に關する全学教育推進機構推進室からのヒアリング実施 共通教育センターによる学位プログラム、(理工学部・FRCR)文理融合コースの検討	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
3. 協学支援制度の構築・整備に於いた学園内協学制度の再編										
a	協学支援制度の構築・整備に於いた学園内協学制度の再編	財務部、学部	協学支援制度と独自の学園内協学のカバー範囲の検証 上記の検証結果を基に協学に関する情報の整理(人数・経費状況等) 甲南の協学制度の再編の点検・改善	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
b	協学のための協学の充実について検討を行う	財務部、学部	上記の協学をもとにした協学再編の目途と本部会議への報告	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
c	上記a)に組み協学支援にかかるニーズの調査とニーズを基にした協学支援の再検討	財務部、学部	上記a)に組み協学支援にかかるニーズの調査とニーズを基にした協学支援の再検討	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度
				2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	評価指標	完了年度

また、定量面からの分析、評価のため、中期計画におけるKGI、KPIをまとめたダッシュボード(下図)を作成しています。ダッシュボードの指標を継続的に確認しながら、大学の「KONAN U.VISION 2025」や高等学校・中学校の将来構想も含めた本学園の中期計画全体を推進しています。

	入口	中身(教育)	中身(学生・生徒支援)	中身(研究)	出口	卒業後	基盤
KGI	実志願者数	授業満足度	総合満足度(卒業時)	科研費採択率	進路満足度	QOL度	キャンパス力(学生の施設満足度)
	入学者数	退学率(4年間)	学生生活の充実度	教員1人あたり科研費採択額	実就職率	キャリアパス満足度	財務力(積立率)
	甲南高校からの内部進学率	ジェネリクススキル測定結果(3年次の平均レベル、平均伸び率)	KONANサーティフィケート参加者数	博士・修士輩出数	【高中】 国公立大学および私立大学医歯薬学部合格者数(延べ数)	就職満足度	組織力(職員満足度)
	【高中】1期午前志願者数	【高中】授業満足度	海外留学者数(短期・中長期)				連携力(自治体等との連携・協定数)
KPI	偏差値(学部別)	ST比	教職員による指導・サポートへの満足度	教員1人あたり著書・論文数	大阪府・兵庫県内企業への就職率	「KONAN-PLANET」登録者数	事業活動収支差額比率
	実質倍率	共通教育への満足度	就職や進学に関する支援・相談への満足度	国際共著論文数	有名企業400社就職率※週刊東洋経済より	奨学金延納率	経常収支差額比率
	延べ志願者数	グローバル教育への満足度	図書館利用者数	大学院定員充足率	社長輩出数	卒業生の記事掲載件数	教育研究経費比率
	【大学・高中】入学者における第1志願者の割合	【高中】学校行事満足度	【大学・高中】課外活動参加率	受託研究件数	進路把握率	人間関係の充実度	人件費+業務委託費比率
	【高中】1期午前実質倍率	【高中】留年・転学・退学者数	【高中】近畿大会・全国大会出場クラブ数	大学発ベンチャーの件数	【高中】海外大学合格者数および関東圏私立大学合格者数	生活面での満足度	教育振興募金件数・金額

(2)ー2 機能別横串戦略の策定

情報化への対応、広報、キャンパス整備、財政基盤の強化、人事、グローバル化の推進等の組織横断の重要な機能に対して、改善すべき全体課題を洗い出し、全体最適をはかるため、機能別横串戦略の策定(下図)を順次検討しました。



(2)ー3 甲南学園中期計画推進のためのクロスファンクショナルチーム(KONAN-CFT)の立ち上げ

中期計画に関する全学的テーマや課題への対応については、組織横断的にメンバーを選出してチームを編成するクロスファンクショナルチーム(以下、CFT)を立ち上げ、その任務にあたっています。様々なプロジェクトやタスクフォース、委員会活動を活性化させることで、全学的な課題の解決や目標を達成し、成果を少しずつ積み上げる形式で実践しています。

① 中高大接続検討小委員会(2021.1～継続)

甲南高中将来構想委員会(2020.10～2021.3)からの提言にもとづき、10年一貫教育リーフレットの作成、大学教員・高中教員の連携による甲南高中出身者への学修支援、出張講義の調整・実施の仕組みづくりを行いました。



IV.事業の概要

1. 甲南学園中期計画(2020~2024)の推進

② 地域社会と朗らかに「つながる学園」プロジェクト(2020.7~継続)

卒業生や地域の方々、また教職員同士がつながりを深め本学の社会的評価を向上すべく、会員制プラットフォーム「KONAN-PLANET」を立ち上げました(2022.4時点会員数8,855名)。あわせてメルマガ配信を開始し、会員の方々に月1回は本学の最新情報に触れていただくとともに、卒業生が経営する企業のご協力のもと、会員向けプレゼント企画も定期的に実施しました。



2022年4月末時点

会員数 **8,855名**

③ KONAN-DXプロジェクト(2020.7~継続)

電子決裁システムの導入と学園グループウェアワークフロー活用タスクフォース、在宅勤務(テレワーク)環境整備タスクフォース、オンライン会議システムの導入と会議のICT活用タスクフォースの活動を継続し、契約決裁の電子化、在宅勤務システムの導入、シンクライアントサーバーのメモリ増強などを行いました。また、上記の3つのタスクフォースを「業務DXサブプロジェクト」として集約するとともに、新たに「経営DX」、「教育DX」、「研究DX」の3つサブプロジェクトを加え、4つのDXサブプロジェクトからなるKONAN-DXプロジェクトに拡張しました。

KONAN-DXの推進

「KONAN-DXプロジェクト」を経営/業務/教育/研究の4分野でDXを推進する体制に拡張し、組織横断で取り組む。

KONAN-DX

- 経営DX
- 教育DX
- 業務DX
- 研究DX

④ スポーツ強化支援検討タスクフォース(2020.11~終了)

「KONAN SPORTS VISION」、「甲南大学スポーツ強化支援の基本方針」、「第5期スポーツ強化支援計画」の策定、「KONAN SPORTS強化指定団体制度」の設計、「スポーツ推薦入試における募集競技種目及び種目別募集枠に関する協議会」の設置、「スポーツ推薦入試における競技種目自由枠」の導入提案を行いました。

KONAN SPORTS VISION

- スポーツの持つ教育力によって人間性の涵養を図り、社会に貢献できる有為な人物を輩出する
- 学生の競技力向上に取り組みとともに、学業とスポーツの両立を推進する
- 全ての甲南人に元氣と感動を届け、地域から愛される「カレッジスポーツ」を創出する

➤ 2021年度は、学生のスポーツでの活躍が甲南人に元氣をもたらしました。



三原舞依さん(経営・4年)
2022年1月エストニアのタリンで行われた四大陸フィギュアスケート選手権2022に出場し、自身2017年以来となる2度目の優勝を見事果たしました。優勝が決まった瞬間両手を挙げ涙を流し喜ぶ姿が印象的でした。



青山華依さん(経営・1年)
国立競技場で行われた東京五輪・陸上女子4×100mリレー予選に出場しました。キャンパス内で感染症対策を徹底し、パブリックビューイングを実施しました。

⑤ 研究費執行業務効率化タスクフォース(2020.12~継続)

不正防止と業務効率化の観点から研究費による物品調達業務フローの改善案を作成しました。

⑥ 「KONAN クオリティ・プラス」プロジェクト(2021.4~継続)

学生本意の教育、親身な学生生活支援、明るく活気あるキャンパス、朗らかなコミュニケーションの実現など、さらに質の高い、学生にとって魅力的な大学にするために、すべての職員組織(部署)が学生支援に関する目標(KONANクオリティの目標)を定め、その実現に向けて取り組みました。

取組み例①事務室掲示の充実



学生がより事務室に入りやすい雰囲気になるように、事務室の場所や職員からのメッセージ付きの掲示を充実

取組み例②Wi-Fiガイドの作成・配布



校内でのWi-Fiの接続方法を分かりやすくまとめたリーフレットを作成・配布

それぞれの部署が作成したポスター(部署の目標と取組みを表したポスター)をポスター集としてまとめ、学生・生徒・保護者の方々に気に入ったポスターに投票していただきました。約1ヶ月の投票期間中に合計987人の方々に投票いただきました。

ポスター集



ポスター投票チラシ



投票1位に輝いた
西宮キャンパス事務室のポスター



また、本プロジェクトの一部として以下2つのサブプロジェクトを立ち上げました。

【チャレンジ・サブプロジェクト(2021.5～継続)】

所属部署の枠を超えて職員同士がチームを結成し、学生のためになる企画を提案・実施できる「チャレンジ・サブプロジェクト」を立ち上げ、8チームが取組みを開始しました。

取組み例①：フードトラックの誘致



各キャンパスにフードトラックを誘致し、日替わりでさまざまなメニューを提供

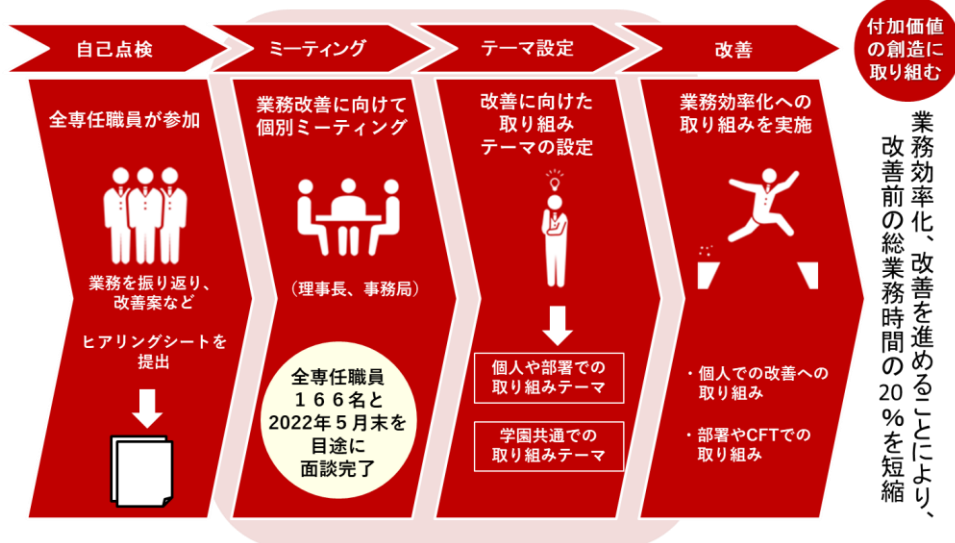
取組み例②：既卒入職職員によるキャリア支援



既卒採用で入職した職員が前職の業界を志望する学生に対してキャリア支援を実施

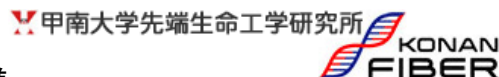
【業務改善サブプロジェクト(2021.12～継続)】

職員に求められる能力が高度化・多様化する中、職員が付加価値の創造にこれまで以上に取り組むことのできる時間を確保するため、すべての専任職員が参加する「業務改善サブプロジェクト」を立ち上げました。



IV.事業の概要

2. 戦略事業の展開



先端生命工学研究所(FIBER)の第Ⅱ期プロジェクト8年目の研究推進

平成26(2014)年度に開始した第Ⅱ期プロジェクトでは、「FIBER第Ⅱ期計画」に基づき、文部科学省科学研究費助成事業「新学術領域研究・分子夾雑の生命化学」(平成29(2017)年から5年間)に採択された研究ほか、公的研究を含めた研究を推進しました。また、核酸研究の国際的な研究拠点として、科学研究費助成事業の「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))」(平成30(2018)年から3年間)に採択された国際共同研究を推進しました(コロナ禍の影響により一部の研究課題を令和3(2021)年度も継続)。加えて、新たに日本学術振興会二国間交流事業に採択された研究課題として、スロベニア国立NMRセンターとの共同研究課題を推進しました。これらの研究課題の遂行により、分子混雑状態の中での核酸の挙動を正確に予測し、先制核酸医工学のための創業に活用できる研究成果を得ました。

本年度の研究成果は、米国化学会誌(Journal of the American Chemical Society)をはじめ、国際的に著名な学術雑誌に多く掲載され、コロナ禍にあっても高い研究レベルを維持し、学術的、社会的に価値のある成果を挙げることができました。また、研究成果の社会還元を目的としたオンラインでの講演会(FIBER Webinar Universe)を11回開催し、海外からも多数の参加がありました。

2021年度開催 FIBER Webinar Universe一覧



IV.事業の概要

3. 大学



中期計画のもと、“「人物教育率先」の進化”を実現するため、KONAN U.VISION 2025に向かう

教学新機軸 | 質の高い教育基盤の確立

① 学生支援体制のさらなる充実化に向けた取り組み

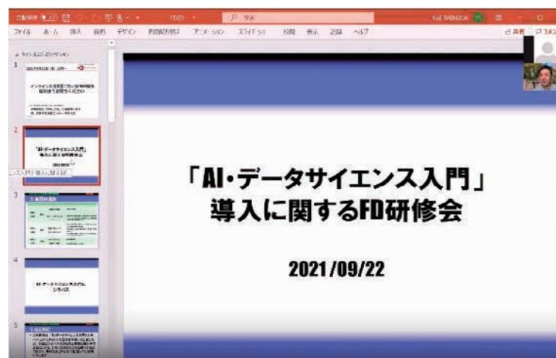
学生一人ひとりの履修や学生生活を支援する本学独自の制度である「指導主任制度」の充実化の一環として、全学共通教育センターの教員が指導副主任となる「指導副主任制度」を開始しました。2021年度はスポーツ推薦入学者を対象に、各学部の指導主任と連携し、学生との面談等を通してサポートを行いました。また、学生支援の多様化・複雑化に対応するとともに、正課外教育の充実・強化を推進する組織体制を整備するため、「学生支援機構(仮称)検討タスクフォース」を設置し、2023年度開設に向けた検討を進めています。

② 教学マネジメントの機能強化の推進

学園・大学の中期計画と教育や学習等の質を保証・向上する「内部質保証活動」の連関性を強化するため、「内部質保証に関する組織関係図」を策定するとともに、全学の内部質保証活動を可視化し、改善・向上を図る「活動目標と方針(PDCAサイクルシート)」を刷新しました。これらによる内部質保証活動の実践を通じて、教学マネジメントのさらなる機能強化を推進します。

③ FD活動の充実と活性化

FD実施方針に沿った体系的なFD活動を推進し、オンライン活用授業に関するFD講習会及び、「AI・データサイエンス入門」導入に関するFDワークショップを実施しました。学修者本位の教育、学修成果の多面的な把握・評価の側面から、授業改善アンケートの見直しに着手しました。



IV.事業の概要

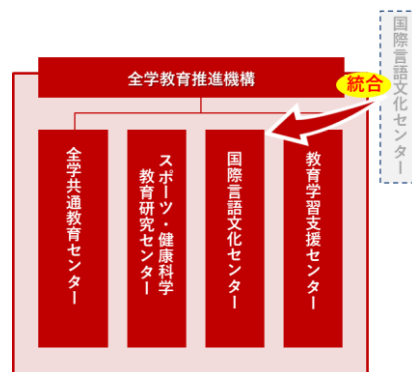
3. 大学

教学新機軸 II | 甲南教育プログラムの発展

① 共通教育を充実化するための組織改編

共通教育のさらなる充実化に向けて、全学教育推進機構に国際言語文化センターを加えるとともに、共通教育センターと国際言語文化センターの教員組織を統合した「全学共通教育センター」に改組する組織再編を決定しました。「甲南大学人物教育フレームワーク」の柱のひとつである「全学共通教育」を推進する一体的な体制のもと、共通教育を再編し、「個性を力にする彩り教育」を展開していきます。

また、マネジメント創造学部生へも岡本キャンパスの共通教育科目を提供することも決定し、3キャンパス融合による学びを段階的に広げていきます。



② 学際的・横断的教育プログラム「文理融合コース」「学際科学コース」の設置(2021年度入学生～)

理系の素養を持って文系の分野でも活躍できる人材を育成すること、理系の学生が潜在的に持つ多様な志向や進路選択に対応することを目的としたコースを全学共通教育センターが理系学部(理工学部物理学科、フロンティアサイエンス学部)と連携により設置しました。希望者は3年次よりコースに所属する予定です。

卒業後の進路としては産学連携におけるコーディネーターや金融業、卸売業などのビジネス分野、法資格の取得や公務員、起業などが想定されており、複雑化・多様化する現代社会にあっても理系の素養を活かして活躍できる人材の育成に努めていきます。

③ 知能情報学部、マネジメント創造学部におけるコース再編

知能情報学部では、日進月歩で進化するAI(人工知能)、データサイエンス、クラウド、ロボット、VRなどのこれからの情報化社会に必要な最先端情報分野を網羅した6つのコース(履修モデル)に再編、マネジメント創造学部では、グローバル社会で力を発揮するための学びを学部全体に広げるために、マネジメントコースと特別留学コースを統合した「進化系CUBE」の教育プログラムがスタートしました。これらをはじめ、時代の要請に対応した各学部の魅力化を推進していきます。



④ 全学生対象のAI・データサイエンス教育の新設

様々な情報を集め、整理し、分析する能力や、そこから新しい価値を生み出す能力が求められるなか、全学部の学生が数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーを身につけることができるよう教育プログラムを開発しました。これを中心に据えた「AI・データサイエンス入門」を2022年度より全学部対象の導入基礎科目として展開します。



AI・データサイエンス入門 | 到達目標

1. AI・データサイエンスの歴史及び現状に関する基本的な理解
2. 最先端のAI・データサイエンス技術の実例を通じた今後の展望の理解
3. 表計算ソフトを活用した基礎的な統計処理によるデータの可視化方法の習得
4. 情報セキュリティに関する基礎的な知識の習得と、データの収集と適正な管理のための知識の習得

教学新機軸Ⅲ | 融合型グローバル教育の発展

① オンラインを活用した留学プログラムの充実

新型コロナウイルスの影響が続くなか、オンラインを活用した留学制度の充実を図り、合計70名の学生がオンラインによる留学を行いました。このうち新たな取組みとして、アメリカ・ピッツバーグ大学の授業と本学のエアスタディーズの授業をオンラインで結び、リアルタイムに協働して学ぶCOIL型プログラムを開講しました。SDGs目標11に関連する持続可能なアーバン・デベロップメントをテーマに、甲南生とピッツバーグ生が、それぞれの都市の歴史、サステナブルな都市計画の取組について学び、グループワークを通してより環境にやさしい未来へ向けた「住み続けられるまちづくり」を考えました。最終日には現地学生を含めたグループに分かれプレゼンテーションを行いました。

甲南大学 国際交流センター
KONAN UNIVERSITY Konan International Exchange Center



② ウィーバー州立大学とのダブルディグリープログラムへの第1期生の派遣を決定

経済学部では2020年度より、ウィーバー州立大学(アメリカ)とのダブルディグリープログラムを開始しました。このプログラムでは、1~2年次は本学で学修し、3年次から同大学に留学することになり、プログラムを修了し所定の要件を満たせば、本学と同大学の両方で学士の学位を取得することができます。

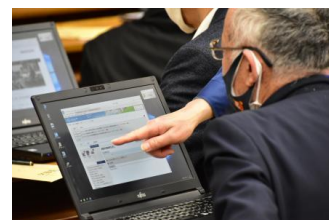
2021年度は、第1期生となる学生の募集・選考を行い、1名の2022年度派遣を決定しました。



教学新機軸Ⅳ | 地域連携の深化

① リカレントプログラムの開設と展開

「人生100年時代の学びプログラム」を開講するとともに、後期には「甲南発法務リカレントプログラム」のプレ開講を行いました。また、リカレント教育センター主催公開講演会にあわせてプログラム説明会を実施するなど、2022年度の「人生100年時代の学びプログラム」及び「甲南発法務リカレントプログラム」には、リピート受講も交えて社会人58名の受講生が集まりました。

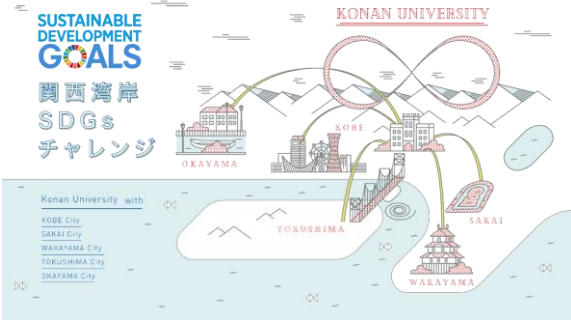


IV.事業の概要

3. 大学

② 地域連携教育の推進

新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、学生が地域課題に取り組む活動を実践しました。「地域の課題をSDGsで考える」をテーマに課題解決に取り組むプロジェクト「関西湾岸SDGsチャレンジ」(朝日新聞社共催)では、大学生20名、高校生20名が参加し神戸市・堺市・和歌山市・徳島市・岡山市の各自治体から提供された課題に対して、SDGsの17の目標を切り口に、持続可能な解決策を発表しました。昨年度の神戸市放置竹林問題をテーマにした提案は、社会的な実践活動に発展しています。

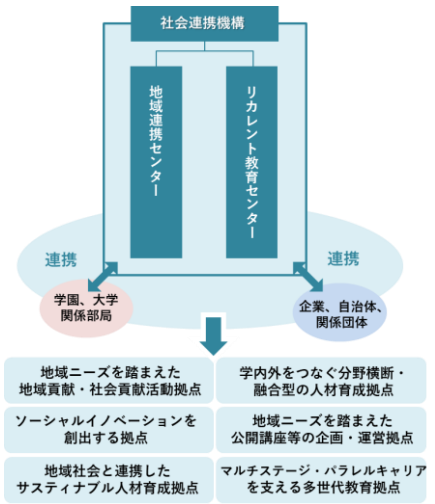


大阪・関西万博
「TEAM EXPO 2025」プログラムに参加



③ 社会連携機構の設置

一体的な社会連携推進体制の整備として、地域連携センターとリカレント教育センターを傘下に置く社会連携機構を新設することを決定しました。学外の諸機関と本学を結ぶ社会連携拠点としての機能を発揮し、本学の社会連携に関する諸活動及び社会のニーズに対応した多様な学びの提供を一体的に行うことを目的として、令和4(2022)年度には、新たなリカレント教育プログラムの開発、SDGsに関する方針の策定と情報発信と推進体制の整備、寄附講座制度を活用した社会連携教育の実施等に取り組めます。



④ 新たなリカレント教育プログラムの開発

新たなリカレント教育プログラムとして、「地域社会のためのスモールビジネス」を受講生が実際に実現することを目標に据えた実践型のアントレプレナー育成プログラムを開発いたしました。兵庫県の助成対象事業にも採択され、令和4(2022)年度は受講料を無料で実施いたします。



⑤ SDGsに関する方針の策定と情報発信

SDGsに関する基本方針の策定取り組みに関する情報発信の強化、推進体制の明確化を推進するため、カーボンニュートラル推進委員会の設置、カーボンニュートラルに向けた取り組みの基本方針を策定いたしました。



教学新機軸Ⅴ | 世界に通じる研究力の展開

① 国立研究開発法人 科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択

国立研究開発法人 科学技術振興機構(以下、JST)の事業「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に甲南大学の取組が採択されました。同事業は、大学の研究科や研究室など既存の枠組みを超えて研究活動を行う優秀な博士後期課程学生を選抜し、当該学生に対する様々な支援を実施・展開する大学の取組を支援するものです。

本学は、新しい融合分野・学際分野の研究に挑戦する博士後期課程の学生を対象に、イノベーション創出に不可欠なトランスレーショナル研究を推進できる人材として成長できるよう、諸活動を支援する「地域連携プラットフォームを活用する産学・官学連携インターンシップによるトランスレーショナル人材の育成」事業を提案し、採択されました。



② 大学院充実化に向けた取り組み

フロンティアサイエンス研究科博士後期課程(2022年度)及び自然科学研究科知能情報学専攻修士課程(2023年度)の収容定員増を行いました。

多様な人材が集まり切磋琢磨できる環境を構築することが求められるなか、有職社会人やリカレントプログラムの受講者などを含めた幅広い層を受け入れることができる大学院の多様なコースの検討を進めています。人文科学研究科英語英米文学専攻の修士課程におけるリカレントコースや人文科学研究科応用社会学専攻・人間科学専攻の博士後期課程における社会人コースの設置を決定し、2022年度より募集開始いたします。

多様な人材の育成を視野に入れ、大学院の活性化をはかるため、本学において高いレベルの教職課程を学んで教員免許を取得した学生を継続して大学院(修士課程)で受け入れ、各研究科における学修を通して身につけた高度な専門知識を有する教員として教育界・社会に輩出するための推薦入学試験を2022年度入試より実施。

③ 外部資金の獲得

2021年度科研費採択率 39.0%(前年度 31.4%)、未申請教員含む教員一人あたりの科研費採択額 700千円(前年度 622千円)となり、科研費採択率・採択額ともに前年度実績を上回る結果となりました。科研費採択率は、過去5年間で最も高く、関西の大学で2位の結果となりました。

教学新機軸Ⅵ | KONAN クオリティの追求

① 第2次KONANプレミア・プロジェクトを編成

本学の創造力、融合力、総合力を活かし、全学挙げてビジョン実現に取り組むことを目的とした創発的プロジェクトとして、「第2次KONANプレミア・プロジェクト」を募集し、計73件(新規15件)のプロジェクトが申請されました。KONAN U.VISION 2025の6つの教学新機軸に沿ったテーマごとに編成し、本学教育の特色を進化させるプロジェクトを展開します。

② 甲南大学開学70周年記念

「甲南、この学び舎70th -未来に伝える、明日につなぐ-」を開催

1951年度に開学した本学は文理学部にはじまり、8学部14学科を擁する総合大学へと発展しました。2019年度には学園創立100周年を迎えて甲南新世紀がスタートし、2021年度、開学70周年を迎えました。本学が紡いできた伝統、取り組む教育や研究の姿を伝えるため、2021年9月から2022年3月にかけて、70周年記念イベント「甲南、この学び舎70th -未来に伝える、明日につなぐ-」を開催いたしました。



IV.事業の概要

4. 高等学校・中学校



中期計画のもと、将来構想を念頭に「人物教育率先」を進化させる

教育プログラムの開発・整備

2022年度からの観点別評価に向けたカリキュラムの再構築を完了、徳育教育・情操教育の開発では、教育研究部で2018年と2019年の道徳授業プログラムの検証と精選を行ったほか、芸術科で情操教育の目標を定義しました。また、学習遅進者に対する学習支援プログラムの整備と学力の定着に向け、進路指導部で中学生徒を検証しました。加えて、高校同窓会により新規OB企業の紹介願ひ、会社訪問等OBの協力を得たキャリア教育を推進しました。



国際交流の推進

新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴い、十分な国際交流の推進を図れない中、各国の入国管理状況を見極めつつ協定校への派遣留学を再開するとともに、留学生の受入れ再開に向けた交渉を重ねました。また、2022年度に開催されるダリッジ・オリムピアドへの参加準備等、海外交流プログラムの整備・充実の検討、新規の協定校開拓に向けた情報収集と海外大学との交流の計画立案を行いました。



教育環境の整備

デジタル教材を活用した効果的な授業展開を図るべく、化学実験室のAV設備を更新、特別教室4にAV機器を設置しました。また、カリキュラム整備と学力の定着に向け、教務部・教育研究部・進路指導部による検討を行うとともに、6年間の成長を可視化するルーブリックの作成を行いました。加えて、新型コロナウイルス感染症の陽性者・濃厚接触者が自宅において授業を受けられるようシステムを構築し運用しました。



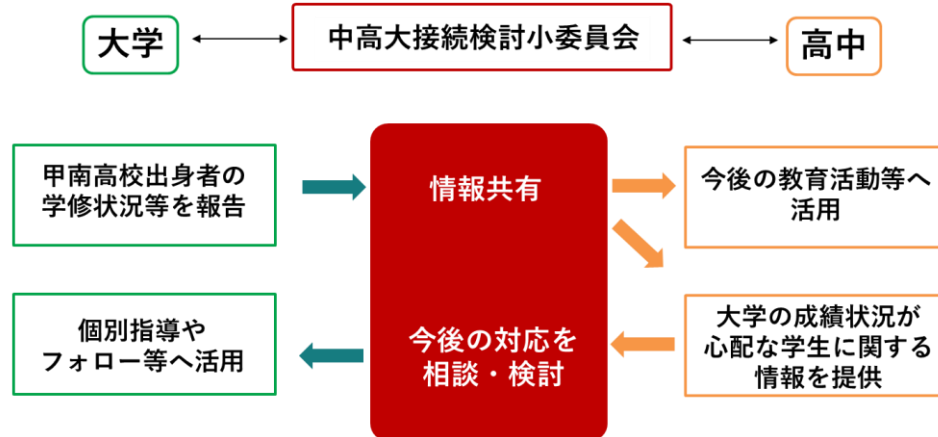
高中運営の持続的発展

コース制の発展・充実を目的にコース改編に向けた原案を作成しました。また、志願者確保のための入試改革として、2023年度中学入試からのWeb出願の実現に向けた導入を検討、試用版の検証を行いました。加えて、校務分掌改編による教員組織の活性化に取り組むべく、校務分掌規程を改正し、国際教育部を新設、メディア情報部をICT教育部に名称改編しました。

甲南中高大10年一貫教育の推進

高等学校・中学校将来構想委員会からの提言事項の実現に向け、中高大接続検討小委員会で建学の理念に基づく中高大10年一貫教育の展開を議論し、出張講義の仕組みを整備、甲南大学進学者への入学後のフォローのための情報共有の仕組みを構築しました。また、甲南中高大10年一貫教育の魅力を学内外に広く発信するパンフレット「甲南中高大10年一貫教育」を発行、在校生徒・保護者に配付しました。2022年度からは学校案内冊子と合わせて志願者への配付を開始します。

甲南中高大 10年一貫教育の推進
甲南高校出身者の各種情報を大学・高中間で共有する仕組みの構築



IV.事業の概要

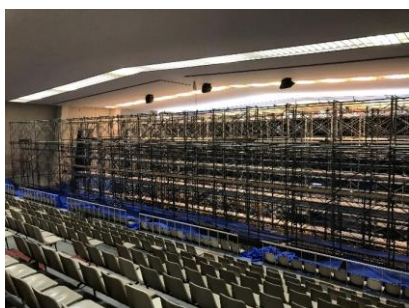
5. 法人

学園運営の一層の健全化

令和2(2020)年度に中枢機能としての位置づけを明確化した学園本部会議や理事会において、学部・センター等の現状と課題を共有し、今後の方向性を確認しました。学園本部会議・理事会の資料及び確認・決定事項については、グループウェアを活用し学内に共有するなど意思決定に関する情報を学内に共有する仕組みを整備しました。また、文部科学省等からの通知文書の学内共有・対応ルールを整備し、各種の通知等に適切かつ確実に対応できる仕組みを整えました。コンプライアンス遵守の観点から、新しく内部通報窓口及びハラスメント学外相談窓口を開設しました。

安心安全かつ環境にやさしいキャンパス整備

運動部室棟の解体・移転工事を実施し耐震化率100%を達成しました。また、老朽化施設への対応として甲友会館天井改修工事、講堂兼体育館天井改修工事等を実施するとともに、防災機能等強化緊急特別推進事業として岡本キャンパス2号館から5号館前に点字ブロックを設置しました。エネルギー消費原単位の削減を目指し、3号館LED化工事、図書館空調設備更新工事を実施しました。



財政基盤の強化

中期計画と予算PDCAサイクルとの連動性を強めるため、事業計画書・予算申請書の様式の見直しを行いました。また、収入多様化という観点から、奨学を目的とする個人または法人等からの寄附金を有効に活用して、本学における教育研究の進展及び充実を図る「寄附講座制度」や、ステークホルダーの方々々に継続的に本学をご支援いただくことを目的とした「未来サポーターズ募金制度」を整備しました。

社会との結節点としての広報機能の拡充

地域貢献や青少年の育成を目的として、県立芸術文化センター、堺ブレイザーズ、西宮ストークス、ヴィクトリーナ姫路と協賛契約を締結しました。また、卒業生・同窓会組織との連携強化の取組みとして、10月に大学同窓会との共催で「オール甲南の集い」を開催しました。甲南四法人連携の取組みとして、甲南四法人共同の新型コロナワクチン職域接種の実施や事務担当者による情報交換会の開催に向けた検討を行いました。



V.財務の概要

1. 財務の概要について

○財務の基本的な考え方

甲南学園が永続的に教育研究活動を展開するためには、財務面の安定が重要です。本学園は創立100周年記念事業においてiCommonsを建設、白川台キャンパスを整備するなど、施設面への大きな投資も行っておりますが、多くの寄付者の方々によるご支援もあり、平成25年度以降は借入金計上しない、いわゆる無借金経営を継続しています。また直近10年の間にはご寄付を財源として、主に奨学金を充実させるための3つの特定資産を誕生させることができました。

学校法人会計には「基本金」という考え方があります。その中の第3号基本金は教育研究を維持・充実するために積立て、その運用利息は奨学金等に活用していますが、第3号基本金の金額は事業活動収入の35%程度に相当するものとなっております。先述の3つの特定資産とあわせて更なる奨学金制度の充実に向けて進んでいます。

なお、単年度の収支においては学生生徒等納付金などの収入額と、教育・研究を中心とした支出額とを均衡させる「経常収支差額の均衡」を意識しています。

○決算について（令和3年度の決算の要点は7ページに掲載しています）

令和3年度予算においては新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着くことを想定し、留学に向けた奨学金や諸外国への出張旅費、さらには家計急変世帯への緊急奨学金等を計上しておりましたが、コロナ禍の継続等により執行残が生じました。また感染予防のための環境整備に向けた予算を確保しておりましたが、効率的な運用や補助金の獲得等により支出を抑制することができました。

【資金収支計算書】

1年間の教育研究活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の顛末を表すものです。

【活動区分資金収支計算書】

資金収支のうち、施設設備の取替更新や更なる取得を「施設設備等活動」として取り出し、また財務活動や収益事業さらには預り金の受払い等の経過的な活動(調整勘定等)を「その他の活動」として取り出し、それ以外のものを「教育活動」として、3つの活動に分けて表すものです。

【事業活動収支計算書】

企業会計の損益計算の仕組みを引用し、負債にならない収入(事業収入)と費用(事業支出)の内容と均衡の状態を明らかにするものです。この収支は、経常的な収支のうち、財務活動(資金調達・運用)及び収益事業に係る活動による「教育活動外収支」、また特殊要因によって一時的に発生した臨時的な活動(例：過年度修正額、資産売却差額、資産処分差額、災害損失、さらには施設設備にかかる寄付金・補助金・現物寄付)による「特別収支」、そしてそれら以外の「教育活動収支」に分けて、収支の均衡を表示します。

【貸借対照表】

決算日時点の財政状態を表します。

2. 資金収支計算書(学園総括) 令和3(2021)年4月1日から令和4(2022)年3月31日まで

収入の部(千円)				支出の部(千円)			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	10,999,964	10,988,150	11,814	人件費支出	7,781,013	7,768,868	12,145
手数料収入	486,416	466,703	19,713	教育研究経費支出	4,148,777	3,831,939	316,838
寄付金収入	142,552	161,760	△ 19,208	管理経費支出	623,920	583,189	40,731
補助金収入	1,903,328	1,921,000	△ 17,672	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	36,000	△ 36,000	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	165,840	240,705	△ 74,865	施設関係支出	886,866	761,848	125,018
受取利息・配当金収入	247,200	290,396	△ 43,196	設備関係支出	315,105	303,559	11,546
雑収入	386,955	444,775	△ 57,820	資産運用支出	2,869,825	3,726,924	△ 857,099
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	1,058,842	1,066,303	△ 7,461
前受金収入	1,988,619	2,133,836	△ 145,217				
その他の収入	3,239,547	3,181,375	58,172	予備費	0	0	0
資金収入調整勘定	△ 2,256,886	△ 2,335,220	78,334	資金収出調整勘定	△ 681,758	△ 724,235	42,477
前年度繰越支払資金	10,195,346	10,195,346	0	翌年度繰越支払資金	10,496,291	10,406,431	89,860
収入の部合計	27,498,881	27,724,826	△ 225,945	支出の部合計	27,498,881	27,724,826	△ 225,945

V.財務の概要

3. 事業活動収支決算・構成比率(学園総括) 令和3(2021)年4月1日から令和4(2022)年3月31日まで

科 目	予算(千円)	決算(千円)	差異(千円)	比率(%)	
教育活動収支	学生生徒等納付金	10,999,964	10,988,150	11,814	75.4%
	手数料	486,416	466,703	19,713	3.2%
	寄付金	130,600	138,459	△ 7,859	0.9%
	経常費等補助金	1,845,963	1,861,592	△ 15,629	12.8%
	付随事業収入	165,540	240,208	△ 74,668	1.6%
	雑収入	386,355	444,813	△ 58,458	3.1%
	教育活動収入計	14,014,838	14,139,925	△ 125,087	97.0%
	人件費	7,749,541	7,713,469	36,072	52.9%
	教育研究経費	5,977,903	5,640,923	336,980	38.7%
	管理経費	644,906	604,125	40,781	4.1%
	徴収不能額等	0	55	△ 55	0.0%
教育活動支出計	14,372,350	13,958,572	413,778	95.7%	
教育活動収支差額	△ 357,512	181,353	△ 538,865		
教育活動外収支	受取利息・配当金	247,200	289,758	△ 42,558	2.0%
	その他の教育活動外収入	300	497	△ 197	0.0%
	教育活動外収入計	247,500	290,255	△ 42,755	2.0%
	借入金等利息	0	0	0	0.0%
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0.0%
	教育活動外支出計	0	0	0	0.0%
教育活動外収支差額	247,500	290,255	△ 42,755		
経常収支差額	△ 110,012	471,608	△ 581,620		
特別収支	資産売却差額	0	10,500	△ 10,500	0.1%
	その他の特別収入	119,317	140,390	△ 21,073	1.0%
	特別収入計	119,317	150,890	△ 31,573	1.0%
	資産処分差額	0	147,652	△ 147,652	1.0%
	その他の特別支出	0	0	0	0.0%
	特別支出計	0	147,652	△ 147,652	1.0%
特別収支差額	119,317	3,238	116,079		
[予備費]	0		0		
基本金組入前当年度収支差額	9,305	474,846	△ 465,541		
基本金組入額合計	△ 1,123,965	△ 417,014	△ 706,951	△ 2.9%	
当年度収支差額	△ 1,114,660	57,832	△ 1,172,492		
前年度繰越収支差額	△ 17,031,702	△ 17,031,702	0		
基本金取崩額	0	25,500	△ 25,500		
翌年度繰越収支差額	△ 18,146,362	△ 16,948,370	△ 1,197,992		
(参考)					
事業活動収入計	14,381,655	14,581,070	△ 199,415	100.0%	
事業活動支出計	14,372,350	14,106,224	266,126	96.7%	

- (注)
- 【科目の説明】
- 学生生徒等納付金 : 授業料・入学金・施設設備資金・施設維持費・教育充実費・実験実習費等
 - 手数料 : 入学検定料・証明書手数料等
 - 寄付金 : 教育振興募金、100周年記念事業募金、企業様からの研究助成等
 - 補助金 : 経常費補助金(改革総合支援事業を含む)、授業料減免費交付金、私立学校施設整備費・研究設備整備費等補助金等
なお、施設整備、研究設備や装置等の設備に対する寄付金と補助金は、特別収支の「その他の特別収入」に計上
 - 受取利息・配当金収入 : 特定資産を含む金銭面の資産運用による収入(施設面の運用による「施設設備利用料収入」を除く)
 - 付随事業・収益事業収入 : 補助活動や受託事業・収益事業にかかる収入等
 - 雑収入 : 退職金財団からの交付金収入、研究費の間接経費分の収入、施設設備の利用による収入等
 - 人件費 : 教員・職員に支給する本俸・期末手当・その他の手当及び所定福利費、役員報酬、退職給与引当金繰入額、退職金
 - 教育研究経費 : 教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
 - 管理経費 : 教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
 - 資産処分差額 : 固定資産(建物・構築物・備品・図書等)の除却・廃棄、有価証券の処分の際の差額(簿価を下回った金額)
 - 徴収不能額等 : 奨学金回収不能額を見積る引当金計上額や、徴収が不能または徴収を免除した徴収不能額
 - 基本金組入額 : 校地・校舎・機器備品・図書等教育研究の充実・拡充のために取得及び取得予定の固定資産の充当額、さらに教育研究基金等への組入額
(基本金は学校法人が教育・研究を継続的に維持向上させるために必要な校地・校舎・機械器具・図書等取得した金額(第1号基本金)、校地・校舎等取得するために年次的・段階的に積み立てる資金(第2号基本金)、教育・研究を維持充実するための積立(第3号基本金)及び恒常的に維持すべき資金として文部科学大臣の定める額(第4号基本金)の確保のために充てられる金額、により構成される)

V.財務の概要

5. 財務比率の推移 (学園総括) 平成28(2016)年度から令和3年(2022)度まで

比率	算式 (×100)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
貸借対照表関係	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	88.7 (87.3)	88.4 (87.3)	88.5 (87.3)	88.3 (87.3)	88.2 (86.5)	88.0
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}(旧: 自己資金)$	96.3 (100.1)	96.2 (99.9)	96.1 (99.7)	96.0 (99.6)	95.9 (98.5)	95.8
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}(純資産は、旧: 自己資金)$	91.3 (92.2)	91.2 (92.2)	91.1 (92.1)	91.1 (92.0)	91.0 (91.3)	91.1
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	396.9 (237.9)	370.9 (240.2)	407.9 (242.5)	380.6 (250.5)	377.7 (255.5)	357.4
	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	2.9 (5.3)	3.1 (5.3)	2.8 (5.2)	3.1 (5.1)	3.1 (5.3)	3.4
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	8.0 (12.8)	8.1 (12.6)	7.9 (12.5)	8.1 (12.4)	8.0 (12.2)	8.1
	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定預金 (資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	50.0 (68.5)	50.0 (69.0)	50.0 (70.6)	50.0 (72.6)	50.0 (72.7)	50.0
	償却引当預金率	$\frac{\text{償却引当特定預金 (資産)}}{\text{償却引当金}}$	23.1 (17.4)	16.5 (17.8)	18.8 (17.7)	21.2 (17.2)	22.9 (18.7)	25.6

比率	算式 (×100)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	80.0 (75.0)	76.5 (76.0)	79.8 (75.9)	79.3 (76.0)	77.0 (75.5)	76.1
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}(旧: 帰属収入)$	4.6 (3.9)	8.1 (1.7)	3.0 (2.3)	3.0 (2.2)	1.9 (2.6)	1.5
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収入の寄付金}}{\text{経常収入}}$	1.6 (2.7)	5.3 (1.3)	1.1 (1.3)	1.2 (1.4)	1.3 (1.8)	1.0
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}(旧: 帰属収入)$	11.9 (11.0)	8.4 (11.1)	8.0 (11.5)	9.6 (11.8)	12.2 (13.3)	13.2
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収入の補助金}}{\text{経常収入}}$	9.3 (11.3)	8.6 (11.4)	8.0 (11.7)	9.6 (11.6)	11.8 (13.2)	12.9
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	56.8 (52.9)	54.1 (53.4)	55.8 (52.9)	55.7 (52.9)	54.7 (51.5)	53.5
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	70.9 (70.5)	70.6 (70.2)	69.9 (69.8)	70.2 (69.7)	71.0 (68.2)	70.2
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	36.9 (33.4)	35.7 (34.1)	37.4 (34.4)	36.7 (34.5)	40.3 (35.7)	39.1
管理経費経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	4.8 (7.6)	4.6 (7.4)	5.2 (7.6)	5.3 (7.8)	4.2 (7.3)	4.2
事業活動支出比率	$\frac{\text{(旧: 消費支出) 事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}(旧: 帰属収入)$	95.2 (93.2)	92.9 (94.2)	96.6 (95.2)	97.6 (94.4)	100.0 (94.0)	96.7
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}(旧: 帰属収入)$	12.5 (12.1)	28.6 (10.1)	2.0 (10.0)	1.5 (10.5)	1.5 (9.2)	2.9

(注)

- ・ () 内は全国理工他複数学部法人平均
- ・ 「固定資産」 = 有形固定資産 + 特定資産 + その他の固定資産
- ・ 「純資産」 = 「自己資金」。自己資金は基本金 + 繰越収支差額
- ・ 「経常収入」 = 教育活動収入 + 教育活動外収入
- ・ 「旧」は平成27(2015)年度の学校法人会計基準の改正前の名称を表す

VI.基本データ

■ 学生数・生徒数(令和3(2021)年5月1日現在)

大学

学部	入学定員	収容定員	実員
文学部	405	1,620	1,752
理工学部	155	620	675
経済学部	345	1,380	1,559
法学部	345	1,380	1,544
経営学部	345	1,380	1,577
知能情報学部	120	480	523
マネジメント創造学部	180	720	762
フロンティアサイエンス学部	45	180	170
計	1,940	7,760	8,562

大学院

研究科	課程	入学定員	収容定員	実員	課程	入学定員	収容定員	実員
人文科学研究科	修士	26	52	11	博士 後期	10	30	10
自然科学研究科		35	70	53		8	24	9
社会科学研究科		20	40	13		3	9	11
フロンティアサイエンス研究科		10	20	31		1	3	5
計		91	182	108		22	66	35

専門職大学院

研究科	実員
法学研究科	26

高等学校・中学校

学校	入学定員	収容定員	実員
高等学校	200	600	579
中学校	175	525	537

■ 留学者数

大学

主な国際交流・留学支援プログラム		派遣人数	受入人数	
中長期 留学プログラム	交換留学	1年	4	0
		半期	2	0
	語学プラス交換留学(語学+専門科目)		1	—
	奨励留学 ※1		1	—
	認定校留学		0	—
	マネジメント創造学部派遣留学 (特別留学コース)		3	—
	マネジメント創造学部派遣留学 (マネジメントコース)		0	—
	甲南大学Year-in-Japanプログラム ※2 (オンラインプログラム)		—	39
小計		11	39	
私費・国費外国人留学生・研究生		—	10	
その他	海外インターンシップ・海外企業訪問 (マネジメント創造学部)		0	—
	海外フィールドワーク・海外ボランティア (マネジメント創造学部)		0	—
	エリアスタディーズ (短期留学体験型プログラム) ※3 (オンラインプログラム)		36	—
	オンライン留学		41	—
	海外ボランティア		0	—
	日本語教授法実習		0	0
	海外語学講座 ※4 (オンラインプログラム)		6	—
	夏期日本語集中講座		—	0
	協定校プログラム		—	0
	Short-term Program ※5 (オンラインプログラム)		—	28
	トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラムによる留学		1	—
	小計		84	28
合計		95	77	

※1 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、渡航できなかつたため、オンラインで現地授業を履修した学生数

※2 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンラインにてプログラムを実施。オンラインホームステイプログラム(4、5月実施)の参加者数(17名)、オンライン日本語マンスリープログラム(9~11月実施)の参加者数(20名)、
春学期プログラム(3月開始)の参加者数(2名)

※3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、渡航プログラムは中止したため、夏・春にオンラインプログラムを実施

※4 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、渡航プログラムは中止したため、夏にオンラインプログラムを実施

※5 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、7月にオンラインプログラムを実施

高等学校・中学校

主な留学派遣・受入先		派遣	受入
交換留学	イギリス	2	2(※1)
	オーストラリア	0	0
	アメリカ(ハワイ)	0	0
	ニュージーランド	0	0
グローバル・スタディ・プログラム	カナダ	13	—
	アメリカ	0	—
	オーストラリア	0	—
	イギリス	18	—
	ニュージーランド	0	—
オンライン(※2)	5	—	
グローバル・ファウンデーション	オーストラリア	0	—
英語研修	オーストラリア	0	—
NASA・FITサイエンスツアー	アメリカ	0	—
グローバル・スタディ・ツアー	タイ	0	—
合計		38	2

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等で、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカへの派遣・受入は中止。

※1 受入中止に伴い、オンラインでのプログラムを履修した生徒数。

※2 派遣中止に伴い、オンラインでのプログラムを履修した生徒数。

VI.基本データ

■ 入学試験状況(令和4(2022)年度入学試験)

大学

学部・学科		一般選抜入試			共通テスト利用入試			その他の入試		
		志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
文学部	日本語日文学科	409	395	167	179	176	84	73	73	38
	英語英米文学科	305	298	160	238	236	123	88	87	60
	社会学科	517	515	180	290	289	106	82	82	58
	人間科学科	576	553	210	320	316	90	119	117	57
	歴史文化学科	479	468	132	375	370	105	79	79	46
	小計	2,286	2,229	849	1,402	1,387	508	441	438	259
理工学部	物理学科	447	427	213	167	162	60	33	32	29
	生物学科	369	364	184	154	153	60	36	35	19
	機能分子化学科	424	402	246	165	160	94	23	22	18
	小計	1,240	1,193	643	486	475	214	92	89	66
経済学部		1,402	1,363	465	777	758	249	347	344	241
法学部		1,317	1,278	472	967	954	426	356	352	239
経営学部		1,586	1,559	463	945	937	272	574	565	248
知能情報学部		671	643	323	433	422	157	113	111	74
マネジメント創造学部		541	522	280	284	278	126	280	268	138
フロンティアサイエンス学部		179	173	132	172	168	134	53	53	35
合計		9,222	8,960	3,627	5,466	5,379	2,086	2,256	2,220	1,300

大学院

課程	研究科・専攻		志願者数	受験者数	合格者数	
修士	人文科学	日本語日文学専攻	3	2	2	
		英語英米文学専攻	1	1	1	
		応用社会学専攻	7	6	4	
		人間科学専攻	3	3	1	
		小計	14	12	8	
	自然科学	物理学専攻	11	11	10	
		化学専攻	19	19	17	
		生物学専攻	11	11	11	
		知能情報学専攻	4	4	4	
		小計	45	45	42	
	社会科学	経済学専攻	6	6	4	
		経営学専攻	3	2	2	
		小計	9	8	6	
	フロンティアサイエンス	生命化学専攻	20	20	19	
	合計			88	85	75

課程	研究科・専攻		志願者数	受験者数	合格者数
博士	人文科学	日本語日文学専攻	0	0	0
		英語英米文学専攻	0	0	0
		応用社会学専攻	0	0	0
		人間科学専攻	1	0	0
		小計	1	0	0
	自然科学	物理学専攻	0	0	0
		生命・機能科学専攻	0	0	0
		知能情報学専攻	1	1	1
		小計	1	1	1
	社会科学	経営学専攻	3	3	3
	フロンティアサイエンス	生命化学専攻	5	5	5
合計			10	9	9

高等学校

募集形態		志願者数	受験者数	合格者数
アドバンスト・コース	一般・推薦入試	35	35	30
	併願(上記に含む)	(3)	(3)	(3)

中学校

募集形態	志願者数	受験者数	合格者数
I 期午前入試	158	152	110
I 期午後入試	254	250	131
II 期入試	276	146	50
III 期入試	183	89	30
甲南小学校	23	23	23
合計	894	660	344

VI.基本データ

■ 学位授与(令和3(2021)年度内に授与した数)

学士		修士		博士	
文学部	426	人文科学研究科	2	人文科学研究科	0
日本語日本文学科	72	日本語日本文学専攻	0	日本語日本文学専攻	0
英語英米文学科	97	英語英米文学専攻	1	英語英米文学専攻	0
社会学科	97	応用社会学専攻	1	応用社会学専攻	0
人間科学科	97	人間科学専攻	0	人間科学専攻	0
歴史文化学科	63	自然科学研究科	26	自然科学研究科	0
理工学部	153	物理学専攻	7	物理学専攻	0
物理学科	45	化学専攻	10	生命・機能科学専攻	0
生物学科	42	生物学専攻	4	知能情報学専攻	0
機能分子化学科	66	知能情報学専攻	5	社会科学研究科	1
経済学部	386	社会科学研究科	4	経営学専攻	1
法学部	396	経済学専攻	4	フロンティアサイエンス研究科	2
経営学部	407	経営学専攻	0	生命化学専攻	2
知能情報学部	127	フロンティアサイエンス研究科	11	合計	3
マネジメント創造学部	181	生命化学専攻	11		
フロンティアサイエンス学部	43	合計	43		
合計	2,119				

専門職学位	
法学研究科法務専攻	8
合計	8

■ 卒業生累計数(令和3(2021)年3月31日現在)

旧制中学校・旧制高等学校	1,889
新制高等学校	12,630

学部	111,045
大学院(修士)	2,708
大学院(博士)	170
専門職大学院	651

■ 大学(学部学生)の就職状況

業種別

<文系>

業種	男性	女性
サービス業	19.0%	26.7%
メーカー	14.3%	9.8%
卸・小売	27.7%	27.1%
金融・保険業	10.5%	13.8%
建設・不動産業	11.5%	6.2%
公務員・教員	6.5%	6.5%
情報通信業	10.5%	9.8%
総計	100.0%	100.0%

<理系>

業種	男性	女性
サービス業	24.5%	20.0%
メーカー	21.5%	38.5%
卸・小売	8.0%	10.8%
金融・保険業	0.6%	1.5%
建設・不動産業	6.1%	1.5%
公務員・教員	4.9%	4.6%
情報通信業	34.4%	23.1%
総計	100.0%	100.0%

規模別

従業員数	文系			理系			全体		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
3000名以上	29.1%	27.2%	28.2%	34.8%	14.8%	29.2%	30.1%	26.1%	28.3%
1000名以上	19.6%	22.0%	20.7%	17.4%	23.0%	19.0%	19.2%	22.0%	20.4%
500名以上	15.4%	12.6%	14.1%	13.5%	16.4%	14.4%	15.0%	13.0%	14.1%
500名未満	36.0%	38.2%	37.0%	34.2%	45.9%	37.5%	35.7%	38.9%	37.1%

主な就職先

関西電力株式会社	株式会社阪急阪神百貨店	日本年金機構
住友電気工業株式会社	日本生命保険相互会社	株式会社パソナグループ
ニプロ株式会社	株式会社みずほフィナンシャルグループ	アクセンチュア株式会社
株式会社荏原製作所	株式会社三井住友銀行	岡山県庁
サントリーホールディングス株式会社	東京海上日動火災保険株式会社	京都市役所
ミネベアミツミ株式会社	株式会社池田泉州銀行	近畿厚生局
オムロン株式会社	株式会社みなと銀行	広島地方検察庁
株式会社キーエンス	尼崎信用金庫	国土交通省近畿地方整備局
ダイハツ工業株式会社	富士通株式会社	神戸市役所
グローリー株式会社	楽天株式会社	大阪国税局
山崎製パン株式会社	ソフトバンク株式会社	兵庫県警察本部
株式会社ファンケル	株式会社オプテージ	兵庫県庁
積水ハウス株式会社	S C S K株式会社	法務省
株式会社大林組	株式会社サイバーエージェント	神戸市教育委員会
TOTO株式会社	読売新聞社	大阪市教育委員会
阪和興業株式会社	一般社団法人共同通信社	兵庫県教育委員会
岩谷産業株式会社	東海旅客鉄道株式会社	生活協同組合コープこうべ
株式会社日本アクセス	株式会社オリエンタルランド	



甲南から『世界』をおもしろく。
KONAN-PLANET
KONAN GAKUEN

KONAN-PLANET 1周年!!

甲南学園中期計画(2020～2024)における
地域社会と朗らかに「つながる学園」プロジェクトとして
スタートした会員制プラットフォーム

「KONAN-PLANET」

開設1周年を迎えました

会員数8,855名
(2022年4月末時点)

これからも「甲南から『世界』をおもしろく」

「朗らかに」みなさまとつながります

KONAN-PLANET 会員募集中



「KONAN-PLANET」 会員特典



WEB情報配信



講義動画配信



相談会



プレゼント



各種サービス

甲南大学 甲南大学大学院

ホームページ <https://www.konan-u.ac.jp>

◎岡本キャンパス

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL(078)431-4341(大代表)

◎西宮キャンパス

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町8-33
TEL(0798)63-5741

◎ポートアイランドキャンパス

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20
TEL(078)303-1457

甲南高等学校・中学校

〒659-0096 兵庫県芦屋市山手町31-3
TEL(0797)31-0551(代表)

ホームページ <https://www.konan.ed.jp>

甲南大学ネットワークキャンパス東京

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー10F
TEL(03)6266-9520

ホームページ <https://www.konan-u.ac.jp/tokyo/>



KONAN GAKUEN

ウェブサイトによる 「教育情報」の公開について

本学では、平成23(2011)年4月1日に施行された「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」に伴い、ウェブサイトにて積極的に「教育情報」を公開しています。甲南大学ホームページの「公開情報」をご覧ください。



発行 令和4年6月

この冊子に関するお問い合わせは、
以下までお願いいたします。

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

TEL(078)431-4341(代) FAX(078)435-2548

e-mail sohmu@adm.konan-u.ac.jp